

東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻看護学コース

年報
2014年度（平成26年度）

Annual Report of
Course of Nursing, Health Sciences,
Tohoku University School of Medicine

2014

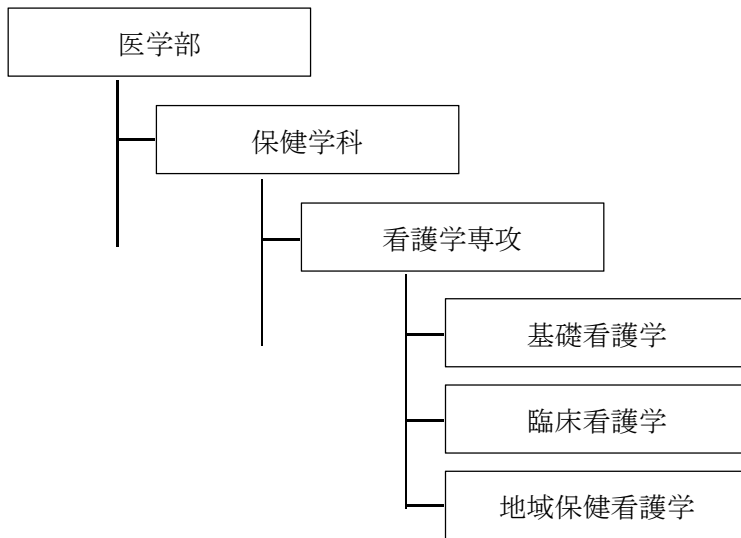
目次

1. 組織と分野	2
1-1. 組織図	2
1-2. 分野紹介	3
2. カリキュラム	16
2-1. 学部カリキュラム	16
2-2. 大学院カリキュラム	17
3. 教員一覧	19
4. 各種データ	21
4-1. 学部入試情報	21
4-2. 大学院入試情報	22
4-3. 学部卒業後の進路	23
4-4. 大学院修了後の進路	25
4-5. 大学院修了者の学位論文一覧	26
4-6. 業績数の推移	30
5. 研究業績	31
5-1. 原著論文・総説（査読あり）	31
5-2. 原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説	34
5-3. 著書	35
5-4. 国際学会発表	36
5-5. 国内学会発表	38
5-6. 外部資金獲得（主任研究）	44
5-7. 外部資金獲得（分担研究）	46
5-8. 外部資金獲得（その他）	48

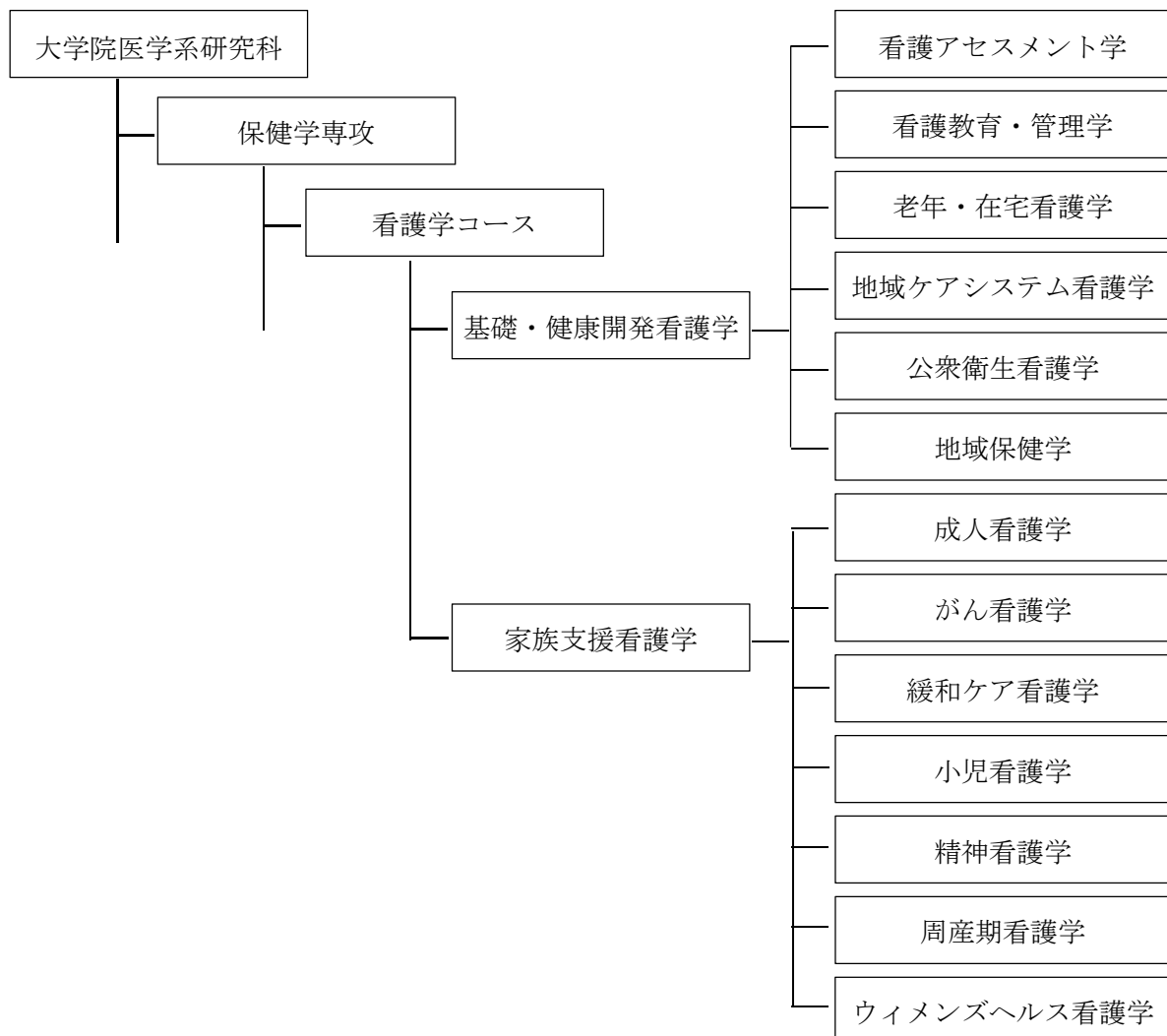
1. 組織と分野

1-1. 組織図 (2015年4月現在)

【医学部保健学科組織図】



【大学院医学系研究科保健学専攻組織図】



1-2. 分野紹介

研究分野名	看護アセスメント学分野
-------	-------------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:丸山良子、講師:菅野恵美、助手:丹野寛大
大学院(博士課程)6名、大学院(修士課程)0名、卒業研究生11名、研究生1名

2. 主な研究テーマ

看護アセスメント学分野では、看護の対象となる人々への適切な日常生活援助を行うために必要なアセスメントの方法、さらに科学的根拠に基づく看護援助技術の開発およびその検証を行うことを目的としています。

【主な研究テーマ】

1. 生理学的指標を用いた看護技術やケアの検証
2. 性ホルモンと自律神経活動の関連性
3. 環境が生体に及ぼす影響
4. 免疫学的手法による皮膚創傷治癒過程に関する科学的実証

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- Horiguchi M, Tanaka G, Ogasawara H, Maruyama R. Validation and gender-based comparison of the eating behavior scale for Japanese young adults. *Psychology*. 2014;5:2173-9.
- Sasaki K, Maruyama R. Consciously Controlled Breathing Decreases the High-Frequency Component of Heart Rate Variability by Inhibiting Cardiac Parasympathetic Nerve Activity. *Tohoku J Exp Med*. 2014;233(3): 155-63.
- Tanno D, Akahori Y, Toyama M, Sato K, Kudo D, Abe Y, Miyasaka T, Yamamoto H, Ishii K, Kanno E, Maruyama R, Kushimoto S, Iwakura Y, Kawakami K. Involvement of Gr-1dull+ cells in the production of TNF- α and IL-17 and exacerbated systemic inflammatory response caused by lipopolysaccharide. *Inflammation*. 2014;37(1): 186-195.
- Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Otomaru H, Hatanaka A, Sato S, Ishii K, Hayashi D, Shibuya N, Imai Y, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Neutrophil-derived tumor necrosis factor- α contributes to acute wound healing promoted by *N*-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. *J Dermatol Sci*. 2013;70(2):130-8.
- 菅野恵美, 丹野寛大, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程におけるbFGF産生へのTNF- α の関与. *日本褥瘡学会誌*. 2012;14(2):113-20.
- Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Tanno H, Toriyabe S, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Wound healing in skin promoted by inoculation with *Pseudomonas aeruginosa* PAO1: the critical role of tumor necrosis factor- α secreted from infiltrating neutrophils. *Wound Repair Regen*. 2011;19(5):608-21.
- Kanno E, Toriyabe S, Zhang L, Imai Y, Tachi M. Biofilm formation on rat skin wounds by *Pseudomonas aeruginosa* carrying the gene fluorescent protein gene. *Exp Dermatol*. 2010;19(2):154-6.
- 芳賀麻有, 丸山良子. 日本古来の「香」が自立神経系に及ぼす影響. *日本看護技術学会誌*. 2010;9(3):34-9.
- Maruyama R. The effect of ambient particulate matter on cardiovascular responses. *Eurozoru Kenkyu*. 2008;23(3):187-192.

【主な著書】

- 菅野恵美, 館正弘. ドレッシング材の選び方と使い分け. In: 宮地良樹(編). まるわかり 創傷治療のキホン. 東京: 南山堂; 2014. p. 151-59.
- 大久保暢子, 菱沼典子, 縄秀志, 丸山良子, 山本真千子, 深井喜代子, et al. ケーススタディ看護形態機能学 臨床実践と人体の構造・機能・病態の知識をつなぐ. 菱沼典子, ed. 南江堂: 東京; 2010.

研究分野名	看護教育・管理学分野
-------	------------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:朝倉京子、助手:原ゆかり、事務補佐員 1 名 大学院(博士課程)3名、大学院(修士課程)5名、研究生 2 名、卒業研究生 1 名
--

2. 主な研究テーマ

1. 看護職の職業移動と心理社会的労働環境に関する研究 2. 看護現象のジェンダー分析に関する研究 3. 看護職の専門職的自律性、自律的な臨床判断、反省的思考に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

<p>【主な研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵, 下條祐也. 日本語版職業コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌. 2015; 35: 63-71. ・Asakura T., Gee G. C, <u>Asakura K.</u> Assessing a culturally appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese Brazilians. International Journal of Cultural Studies. 2015; DOI:10.1080/17542863.2015.1074259 ・朝倉京子, 籠玲子. 中期キャリアにあるジェネラリスト・ナースの自律的な判断の様相. 日本看護科学会誌, 2013;33(4):43-52. ・Tei-Tominaga M, Asakura T, <u>Asakura K.</u> Stigma towards nurses with mental illnesses: a study of nurses and nurse managers in hospitals in Japan. Int J Ment Health Nurs. 2013;23(4):316-25. ・Togari T, <u>Satoh M.</u>, Otemori R, Yonekura Y, Yokoyama Y, Kimura M, Tanaka W, Yamazaki Y. Sence of coherence in mothers and children, family relationships and participation in decision-making at home: an analysis based on Japanese parent-child pair data. 2012;27(2):148-56. ・渡邊生恵, 杉山敏子. 一般病床患者と看護師による療養環境評価の特性. 日本看護研究学会雑誌. 2012;35(5):117-28. ・<u>Asakura K.</u>, <u>Watanabe I.</u> The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202. ・<u>Watanabe I.</u>, Kuriyama S, Kakizaki M, Sone T, Ohmori-Matsuda K, Nakaya N, Hozawa A, Tsuji I. Green tea and death from pneumonia in Japan: the Ohsaki cohort study. Am J Clin Nutr. 2009;90(3):672-9. ・籠玲子,朝倉京子.病院の外科病棟に勤務する看護師の役割認知とそれに関わる体験. 看護研究. 2008;41(1):61-72. <p>【主な受賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>Asakura K.</u>, <u>Watanabe I.</u> The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202. (平成 23 年度東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門賞受賞) ・<u>Shimojo Y.</u>, <u>Asakura K.</u>, Satoh M, Watanabe I. Relationships between Work-family Organizational Culture, Organizational Commitment, and Intention to Stay in Japanese Registered Nurses. IOCH; Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep; Adelaide, Australia. (Student Award for the Best Poster 受賞)
--

研究分野名	老年・在宅看護学分野
-------	------------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:尾崎章子、講師:齋藤美華、助手:東海林志保

2. 主な研究テーマ

1. 高齢者の生活の質の向上に資する睡眠支援に関する研究
2. 定年退職後の高齢男性を対象とした地域活動への参加支援プログラムの開発
3. 高齢者の予想される死における看護職の看取り教育プログラム開発

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 尾崎章子, 巽あさみ, 睡眠指針の普及と啓発に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 健康日本 21(第2次)に即した睡眠指針の改訂に資するための疫学研究. 平成 26 年度総括・分担研究報告書. 2015;107-120.
- ・ 西崎末和, 尾崎章子, 其田貴美枝, 畑中晃子, 御任充和子, 山本由香, 新井由希子. 看護学基礎教育における退院支援実習の学習効果. 日本在宅看護学会誌. 2015;3(2):1-10.
- ・ 村嶋幸代, 尾崎章子, 岸恵美子, 祖父江育子, 宮本千津子, 吉田澄恵, 和住淑子, 赤星琴美. 看護学教育質向上委員会報告. 日本看護系大学協議会平成 26 年度事業活動報告書. 35-45, 一般社団法人日本看護系大学協議会, 2015.
- ・ 川原礼子, 齋藤美華, 坂川奈央, 東海林志保. 高齢者の「予想される死」における看護職による呼吸停止確認の現状と認識—全国老人保健・福祉施設の看護職への調査から—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2015;24(2):65-75.
- ・ 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-48.
- ・ 齋藤美華, 坂川奈央, 東海林志保, 川原礼子. 訪問看護師が実施した医行為における看護教育へのあり方. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(2):73-82.
- ・ 齋藤美華, 坂川奈央, 大槻久美, 川原礼子. 高齢者の褥瘡ケアに関する訪問看護師の医行為の内容とその判断理由. 北日本看護学会誌. 2013;16(1):33-42.
- ・ 坂川奈央. 米国高齢者施設の査察報告第 2 報—米国における要介護高齢者の生活実態と意思決定に関する考察—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(1):1-8.
- ・ 坂川奈央. 米国高齢者施設の査察報告第 1 報—米国高齢者施設のケアの質の管理システムにみる我が国の課題—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(2):51-60.
- ・ 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護師の裁量拡大に対する当該職種の見解の内容. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):33-39.
- ・ 川原礼子, 齋藤美華, 大槻久美. 訪問看護場面の尿閉に対する医行為の実態およびその認識 アセスメント状況と看護師の判断でできると考え得る理由. 看護実践の科学. 2012;37(2):30-7.
- ・ 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 高齢者の排便ケアに関する医行為が訪問看護師の判断で行えると考えた理由. 日本老年看護学会誌. 2012;16(2):65-71.
- ・ 齋藤美華, 齋藤美咲, 半沢みどり, 阿部由美, 角張範子, 齋藤真美, 大槻久美, 川原礼子. 外来化学療法を受けている高齢がん患者の生活への思い. 北日本看護学会誌. 2010;13(1):21-9.

【主な著書】

- ・ 川原礼子. バリデーシオン療法・その他. In: 日本臨床増刊号 認知症学(下)その解明と治療の最新知見. 大阪: 日本臨床社; 2011. p. 136-9.

研究分野名	地域ケアシステム看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:末永カツ子、准教授:高橋香子、助教:栗本鮎美
大学院(修士課程)1名、卒業研究生4名

2. 主な研究テーマ

本分野では、地域の健康・生活課題に対応できる協働の地域保健活動方法論に関する研究や被災地の住民・関係者と協働したコミュニティ再生のための研究に取り組んでいます。また、2014年4月に開設した大学院保健師養成コースの教育・研究にも携わっており、今後その成果を検証していきたいと考えます。

【主な研究テーマ】

1. ヘルスプロモーションと公衆衛生看護に関する研究
2. 地域のエンパワメントと地域ケアシステムに関する研究
3. 地域保健福祉活動における協働の活動方法論に関する研究
4. 被災地の保健師活動に関する研究
5. 被災地におけるコミュニティ・エンパワメントに関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 真溪淳子, 末永カツ子, 高橋香子, 今野勇子, 佐々木久美子, 佐々木秀美, 佐藤幸子, 高橋いく子, 水沼一子. アクションラーニングを用いた保健師のリーダーシップ開発研修に関する考察. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(1):25-33.
- ・ 伊藤加奈子, 末永カツ子. 保健師が参画する実践コミュニティの意義に関する一考察. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):41-9.
- ・ Tsubota-Utsugi M, Ito-Sato R, Ohkubo T, Kikuya M, Asayama K, Metoki H, Fukushima N, Kurimoto A, Tsubono Y, Imai Y. Health behaviors as predictors for declines in higher-level functional capacity in older adults: the Ohasama study. J Am Geriatr Soc. 2011;59(11):1993-2000.
- ・ 栗本鮎美, 栗田主一, 大久保孝義, 坪田(宇津木)恵, 浅山敬, 高橋香子, 末永カツ子, 佐藤洋, 今井潤. 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版(LSNS-6)の作成と信頼性および妥当性の検討. 老年医学会雑誌. 2011;48(2):149-157.
- ・ 末永カツ子. 【ライフステージを通じた支援】 発達障害のある人の自立をめざす地域ケアシステムの構築に向けて. LD 研究. 2010; 19(2): 113-120.
- ・ Utsugi MT, Ohkubo T, Kikuya M, Kurimoto A, Sato RI, Suzuki K, Metoki H, Hara A, Tsubono Y, Imai Y. Fruit and vegetable consumption and the risk of hypertension determined by self measurement of blood pressure at home: the Ohasama study. Hypertens Res. 2008;31(7):1435-43.

【主な著書】

- ・ 末永カツ子. 障害者と福祉. In: 増田雅暢, 島田美喜(編). ナーシング・グラフィカ⑨ 健康支援と社会保障社会福祉と社会保障(第2版第4刷). メディカ出版: 大阪; 2012. p. 90-106.
- ・ 末永カツ子. 地域看護管理者に求められるリーダーシップ. In: 日本看護協会(監修). 第2版 新版 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2010. p. 100-3.
- ・ 末永カツ子, 平野かよ子. 地域保健管理の諸相. In: 日本看護協会(監). 第2版 新版 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2010. p. 92-9.
- ・ 末永カツ子. 活動を支える概念:公共性. In: 中西睦子(監). TACS シリーズ 10 実践地域看護学. 東京: 建帛社; 2010. p. 61-4.

研究分野名	公衆衛生看護学分野
-------	-----------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:大森純子、助教:田口敦子、研究補佐員1名、大学院博士課程4名、大学院修士課程2名、卒業研究生7名、研究生1名

2. 主な研究テーマ

米国の公衆衛生領域で主流となっている(CBPR:Community Based Participatory Research)という研究スタイルを用い、保健師など保健行政の関係職種や住民の方々と一緒に、「"地域への愛着"を育む健康増進プログラムの開発」、「近隣住民間の交流促進プログラムの開発」などに取り組み、個人変容と社会変容に参画しています。また、住民ボランティアと保健行政の関係職種がどのように協働していけばよいかについても探索しています。質的研究、量的研究、混合法などリサーチクエストにより多様な手法を用います。

【主な研究テーマ】

- ・文化と健康観、ヘルスプロモーション、ソーシャルデザインに関する研究
- ・地域への愛着と健康に関するプログラム開発、地域への愛着を育むメソッド開発
- ・行政と住民ボランティアの効果的な協働方法、近隣住民間の交流促進に関する研究
- ・コミュニティアセスメント、地域特性に応じた看護職間ネットワークに関する研究

3. 主な研究業績(2014年1月以降) ※2014年1月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 他. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-8.
- ・大森純子. 住民と共創する健康増進—地域の底力育むために—. 東北医学雑誌. 2014;126(2):147-150.
- ・大森純子, 小林真朝, 小野若菜子, 他. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014;40:105-11.
- ・Taguchi A, Naruse T, Kuwahara Y, et.al. Characteristics of clients using home-visiting nursing services at nighttime and early morning in Japan -Focusing on clients' cancellation of services of visiting nurses at nighttime and early morning. Home Health Care Manage Pract. 2014;26(4):250-6.
- ・Taguchi A, Nagata S, Naruse T. et.al. Identification of the need for home visiting nurse: development of a new assessment tool. Int J Integr Care. 2014;14.

【主な著書】

- ・大森純子. 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術. 佐伯和子, ed. 東京: 医歯薬出版; 2014.
- ・大森純子. これからの保健医療福祉行政論. 星旦二, 麻原きよみ, ed. 東京: 日本看護協会出版会; 2014.
- ・大森純子. 質的心理学フォーラム選書1 インタビューという実践. 斎藤清二, 山田富秋, 本山方子, ed. 東京: 新曜社; 2014.
- ・大森純子. 公衆衛生実践キーワード. 鳩野洋子, 島田美喜, ed. 東京: 医学書院; 2014.

【主な学会発表】

- ・酒井太一, 大森純子, 高橋和子, 他. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第1報) “地域への愛着”尺度項目の検討. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2014 Jan 12-13, 小田原.
- ・高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 他. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第2報) 関連要因の検討一. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2014 Jan 12-13, 小田原.
- ・三森寧子, 高橋和子, 大森純子, 他. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第3報) 健康関連 QOL との関連性. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2014 Jan 12-13, 小田原.

研究分野名	地域保健学分野
-------	---------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:南 優子 大学院(修士課程)2名

2. 主な研究テーマ

<p>がん・自己免疫疾患などの難治性慢性疾患の危険因子・予後因子を解明し、その成果を疾病予防活動や臨床の場に提供することを目的に研究に取り組んでいる。</p> <p>【主な研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種がんの記述疫学・分析疫学 2. 自己免疫疾患の疫学 3. 疫学方法論に関する研究
--

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

<p>【主な研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nishino Y, <u>Minami Y</u>, Kawai M, Fukamachi K, Sato I, Ohuchi N, Kakugawa Y. Cigarette smoking and breast cancer risk in relation to joint estrogen and progesterone receptor status: a case-control study in Japan. Springerplus. 2014 Feb 3;3:65. doi: 10.1186/2193-1801-3-65. • <u>Seki T</u>, Nishino Y, <u>Tanji F</u>, Maemondo M, Takahashi S, Sato I, <u>Kawai M</u>, <u>Minami Y</u>. Cigarette smoking and lung cancer risk according to histologic type in Japanese men and women. Cancer Sci. 2013;104(11):1515-22. • Collaborative Group on Hormonal Factors in Breast Cancer (<u>Kawai M</u>, <u>Minami Y</u>, Tsuji I, Fukao A) Menarche, menopause, and breast cancer risk: individual participant meta-analysis, including 118 964 women with breast cancer from 117 epidemiological studies. Lancet Oncol. 2012;13(11):1141-51. • <u>Kawai M</u>, Kakugawa Y, Nishino Y, Hamanaka Y, Ohuchi N, <u>Minami Y</u>. Reproductive factors and breast cancer risk in relation to hormone receptor and menopausal status in Japanese women. Cancer Sci. 2012;103(10):1861-70. • <u>Kawai M</u>, <u>Minami Y</u>, Nishino Y, Fukamachi K, Ohuchi N, Kakugawa Y. Body mass index and survival after breast cancer diagnosis in Japanese women. BMC Cancer. 2012 Apr 17;12:149. doi:10.1186/1471-2407-12-149. • <u>Minami Y</u>, Nishino Y, <u>Kawai M</u>, Kakugawa Y. Being breastfed in infancy and adult breast cancer risk among Japanese women. Cancer Causes Control. 2012;23(2):389-98. • <u>Minami Y</u>, Hirabayashi Y, Nagata C, Ishii T, Harigae H, Sasaki T. Intake of vitamin B6 and dietary fiber and clinical course of systemic lupus erythematosus: a prospective study of Japanese female patients. J Epidemiol. 2011;21(4):246-54. • <u>Kawai M</u>, <u>Minami Y</u>, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Alcohol consumption and breast cancer risk in Japanese women: the Miyagi Cohort study, Breast Cancer Res Treat. 2011;128(3):817-25. • Kawai M, <u>Minami Y</u>, Kuriyama S, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Ishida T, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Adiposity, adult weight change and breast cancer risk in postmenopausal Japanese women: the Miyagi Cohort Study. Br J Cancer. 2010;103(9):1443-7. • <u>Minami Y</u>, Tochigi T, Kawamura S, Tateno H, Hoshi S, Nishino Y, Kuwahara M. Height, urban-born and prostate cancer risk in Japanese men. Jpn J Clin Oncol. 2008;38(3):205-13.

研究分野名	成人看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:今谷 晃、講師:菊地史子、卒業研究生 3名

2. 主な研究テーマ

1. 胃粘膜上皮細胞の分化制御と胃癌に関する研究
2. *Helicobacter pylori* に対する免疫応答に関する研究
3. 粘膜免疫応答による上皮細胞の細胞内シグナル伝達機構の解明
4. 上部消化管疾患と遺伝子多型に関する研究
5. 緩和ケア病棟における終末期患者に関わるリハビリテーションスタッフと看護職との協働に関する研究
6. 終末期リハビリテーションと患者・家族感情との関連に関する質的研究
7. 看護師自身のケア評価とケア満足度に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

- 【主な受賞】**
- ・ 佐藤典子, 佐藤しのぶ, 菊地淳子, 齋藤明美, 菊池愛, 佐々木知子, 菊地史子. 緩和ケア病棟で終末期リハを行っている患者に関わる家族の思い. 第15回東北緩和医療研究会青森大会; 2011 Sept 23, 青森. (ベストプレゼンテーション賞)
 - ・ 佐藤しのぶ, 穀田知秋, 菊池愛, 吉野恵美子, 佐藤典子, 齋藤明美, 畠山里恵, 菊地史子. 緩和ケア病棟で終末期患者と家族に関わる看護師とリハビリテーションスタッフとの協働を考える. 第18回東北緩和医療研究会秋田大会 2014 Aug, 秋田. (研究奨励賞)

研究分野名	がん看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:佐藤富美子、助教:佐藤菜保子、助手:須藤久実
大学院(博士課程)3名、大学院(修士課程)3名、卒業研究生5名

2. 主な研究テーマ

がん看護学分野は、がんの罹患や治療によって影響を受けた個人や家族のクオリティ・オブ・ライフ(Quality of Life:QOL)に関する看護理論の開発をテーマに研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 乳がん患者の術後上肢機能障害予防改善に向けた介入効果に関する研究
2. 肺癌患者の治療に伴うQOL維持向上に関する研究
3. 前立腺がん術後患者のテレナーシング介入効果に関する研究
4. がん患者の治療選択プロセスにおける看護支援に関する研究
5. がん治療を受ける患者の症状マネジメントに関する研究
6. がん患者および家族のストレスと看護介入に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ Sato F, Ishida T, Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer: a controlled trial. *Tohoku J Exp Med.* 2014;232:115-22.
- ・ Sato N, Suzuki N, Sasaki A, Aizawa E, Obayashi T, Kanazawa M, Mizuno T, Kano M, Aoki M, Fukudo S. Corticotropin-Rel Corticotropin-releasing hormone receptor 1 gene variants in irritable bowel syndrome. *PLoS ONE.* 2012;7(9):e42450.
- ・ 佐藤富美子. 術後1年までの乳がん体験者における患側上肢の苦痛に関連する要因の検討. *日本保健医療行動科学会年報.* 2012;27:157-170.
- ・ 佐藤菜保子, 皆川州正, 福土審. 医療従事者の「終末期患者支援認知行動尺度」の開発—看護職を対象とした検討—. *心身医学.* 2012;52(1):45-33.
- ・ 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知と客観的評価の関連. *日本がん看護学会誌.* 2009;23(2):33-41.

【主な著書】

- ・ 佐藤富美子. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割. In: 清水英佑, 佐藤富美子, 福本正勝(編). *社会保障と公衆衛生.* 東京: 医学評論社; 2013. p. 244-64.
- ・ 佐藤富美子. 生殖系機能障害のある患者の看護・乳がん患者の看護・前立腺がん患者の看護・子宮がん患者の看護. In: 黒田裕子(編). *成人看護学第2版.* 東京: 医学書院; 2013. p. 508-29.
- ・ 佐藤富美子. 乳がん患者のアセスメントと看護. In: 黒田裕子(編). *成人看護学.* 東京: 医学書院; 2009. p. 482-9.
- ・ 佐藤富美子. 頭頸部のアセスメント、眼のアセスメント、乳房のアセスメント. In: 小野田千枝子(監). 高橋照子, 芳賀佐和子, 佐藤富美子(編). *実践!フィジカル・アセスメント—看護者としての基礎技術* 改訂第3版. 東京: 金原出版; 2008. p. 35-61, 94-100.

【主な受賞】

- ・ 佐々木彩加, 佐藤菜保子, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審. 過敏性腸症候群におけるコルチコロピン放出ホルモン関連遺伝子多型. *Japan Gut Club.* 2012 Nov 24; 東京. (特別奨励賞)

研究分野名	緩和ケア看護学分野
-------	-----------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:宮下光令、助教:佐藤一樹、事務補佐員3名、研究補助員1名
大学院(博士課程)2名、大学院(修士課程)4名、卒業研究生7名

2. 主な研究テーマ

緩和ケア看護学分野は、「がん」などの疾病により身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を抱える患者さまやご家族の QOL (Quality of Life: 生活の質) を維持し向上させることにより、患者さまやご家族が苦痛なく安心して生活することを支えるための看護の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 進行がん患者、家族の QOL 向上に向けた支援方法の開発
2. 緩和ケアや終末期ケアの質の評価と実態調査
3. 緩和ケアや終末期ケアに関する卒前・卒後教育に関する研究
4. がん以外の疾患に対する緩和ケアや終末期ケアに関する研究

3. 主な研究業績(2009年10月以降) ※2009年10月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・ Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden. J Clin Oncol. 2015 Feb 1;33(4):357-63.
- ・ Miyashita M, Morita T, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. A nationwide survey of quality of end-of-life cancer care in designated cancer centers, inpatient palliative care units and home hospices in Japan: the J-HOPE study. J Pain Symptom Manage. 2015 Jul;50(1):38-47.e3.
- ・ Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Sasaki Y, Narabayashi M, Wada T, Matsubara M, Takigawa C, Shinjo T, Suga A, Inoue S, Ikenaga M, Kohara H, Tsuneto S, Shima Y. The independent validation of Japanese version of EORTC QLQ-C15-PAL for advanced cancer patients. J Pain Symptom Manage. 2015 May;49(5):953-9.
- ・ Miyashita M, Kawakami S, Kato D, Yamashita H, Igaki H, Nakano K, Kuroda Y, Nakagawa K. The importance of good death components among cancer patients, the general population, oncologists and oncology nurses in Japan: Patients prefer "fighting against cancer." Support Care Cancer. 2015 Jan;23(1):103-10.
- ・ Sato K, Shimizu M, Miyashita M. Which quality of life instruments are preferred by cancer patients in Japan? Comparison of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-C30, and the Functional Assessment of Cancer Therapy-General. Support Care Cancer.2014;22(12):3135-41.
- ・ Sato K, Inoue Y, Umeda M, Ishigamori I, Igarashi A, Togashi S, Harada K, Miyashita M, Sakuma Y, Oki J, Yoshihara R, Eguchi K.. A Japanese region-wide survey of the knowledge, difficulties, and self-reported palliative care practices among nurses. Jpn J Clin Oncol. 2014;44(8):718-28
- ・ Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. Lancet Oncol. 2013;14(7):638-46.

【主な著書】

- ・ 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵, et al. In 宮下光令(編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学 7 緩和ケア. 大阪: メディカ出版; 2013. 286p.

【主な受賞】

- ・ 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 岩淵正博, 木下寛也. 遺族の評価による終末期ケアの質評価尺度 Care Evaluation Scale と終末期患者の QOL 評価尺度 Good Death Inventory の非がん患者での信頼性・妥当性の検証. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 横浜.(最優秀演題)

研究分野名	小児看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:塩飽 仁、助教:鈴木祐子、助手(兼):井上由紀子
大学院(博士課程後期)4名、大学院(博士課程前期)5名、卒業研究生6名

2. 主な研究テーマ

小児看護学分野は、子どもと家族を発達上のライフイベントに応じて支援する看護を追求している分野です。特に子どもと家族を心理・社会的に支える看護の研究、教育、実践に力点を置き、東北大学病院とのunificationや、学校、地域、医療機関、他大学などとの連携のもとに活動しています。我々の分野の研究、教育、実践のおもなテーマは以下の通りです。

【主な研究テーマ】

1. 子どもと家族を心理・社会的に支える看護支援の開発
2. 神経症や軽度発達障害の子どもの療育支援と家族へのメンタルヘルスケア
3. 悪性疾患の子どもと家族のトータルケア

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 榎谷由美子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一. 看護師が抱く子どもの終末期ケアを行う上での障壁と困難. 日本小児看護学会誌. 2014;23(3):49-55.
- ・ 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 木村智一. 治療が難しい状況にあると告げられた小児がんの子どもの両親は治療方針に関する意思決定をどのように行ったのか. 北日本看護学会誌. 2014;17(1):11-7.
- ・ 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 看取りの時期にある小児がんの子どもとその親をケアする看護師が抱える葛藤. 日本小児看護学会誌. 2013;22(2):41-7.
- ・ 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもに必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;8(1):38-49.
- ・ 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもを支える家族に必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;(1): 50-8.
- ・ 入江亘, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 小児がん患児の父親が患児とのかかわりに抱く思い—小児がん患児の父親とその他の長期入院を要する患児の父親の比較—. 小児がん看護. 2012;7:28-38.
- ・ 佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. 日本看護学研究学会雑誌. 2011;34(4):23-31.
- ・ 高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 神経症患児の両親の役割受容と親役割行動の特徴—子どもの精神的健康および家族機能評価との関連—. 日本小児看護学会誌. 2010;19(1):25-36.
- ・ 高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. 日本看護学研究学会雑誌. 2009;32(2):55-63.

【主な著書】

- ・ 塩飽仁, 井上由紀子. 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In: 奈良間美保, 丸光恵(編). 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論. 東京: 医学書院; 2011. 460-73.
- ・ 塩飽仁ほか. 第8章 トータルケア 心理面へのケア「総論」「時期別ケア;診断時の心理と看護, 再発時の支援」, 特別な配慮が必要な問題「ボディイメージの変化, 小児がんのサイコオンコロジー」. In: 丸光恵, 石田也寸志(監). ココからはじめる小児がん看護. 東京: へるす出版; 2009. 250-74.

【主な受賞】

- ・ 佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. 日本看護学研究学会雑誌. 2011;34(4):23-31. (日本看護研究学会平成24年度奨励賞)
- ・ 高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. 日本看護学研究学会雑誌. 2009;32(2):55-63. (日本看護研究学会平成22年度奨励賞)

研究分野名	精神看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:齋藤秀光、講師:吉井初美、助教:光永憲香、助手:柴田裕希
大学院(博士課程)1名、大学院(修士課程)2名、卒業研究生4名

2. 主な研究テーマ

精神看護学分野は、看護師を主とする職業人、精神障害者およびその家族のメンタルヘルスを支援することを目的とした研究に取り組んでいる。精神障害者に関しては、精神疾患の発症ないし再発予防やスティグマ対策などの研究を、家族に関しては、精神科以外の患者の家族に対する研究を行っている。

【主な研究テーマ】

1. 看護師のメンタルヘルス支援
2. 精神疾患の発症予防および再発予防の支援
3. 精神障害者に対するスティグマ対策
4. 家族のメンタルヘルス支援

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 松本和紀, 濱家由美子, 光永憲香, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 桂雅宏, 松岡洋夫. サイコーシス早期段階における CBT の活用. 精神神経学雑誌. 2013;115(4):390-98.
- ・ Yoshii H. Qualitative study of stigmatization of mental illness in the Japanese workplace: the experience of mentally disabled people. Health. 2013;5(9):1378-85.
- ・ 吉井初美, 北村信隆, 齋藤秀光, 赤澤宏平. 統合失調症患者の口腔衛生支援:レビュー. 総合病院精神医学. 2013;25:268-76.
- ・ Yoshii H., Watanabe Y, Kitamura H, Akazawa K. Schizophrenia knowledge and attitudes toward help-seeking among Japanese fathers and mothers of high school students. Health. 2013;5(3A):497-503.
- ・ Yoshii H., Watanabe Y, Mazumder AH, Kitamura H, Akazawa K. Stigma toward schizophrenia among parents of high school students. Global Journal of Health Science. 2013;5(6):46-53.
- ・ 齋藤秀光, 富永美弥, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 上埜高志, 島田 哲, 田島つかさ, 中保利通, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアにおける家族への精神的支援. 精神医学. 2012;54:419-426.
- ・ 吉井初美. 職場での精神障害者に対するスティグマ問題. 産業精神保健. 2012;20(2):135-141.
- ・ 齋 二美子. 精神科熟練看護師が捉えたうつ病患者に対する退院支援を判断するための患者の反応と介入過程. 日本精神保健看護学会誌. 2011;20(1):10-20.
- ・ 山口紗穂, 上埜高志, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 菊地紗耶, 齋 二美子, 加藤道代, 明城光三, 上原茂樹, 小野寺 弘. 妊産褥婦の心理社会的状態に関する研究—宮城県内の助産師外来利用者を対象にして—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20:81-89.

【主な著書】

- ・ 齋藤秀光. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2012 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2011. p. 153.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2011 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2010. p.151.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 石井厚(監修). 新版精神保健第2版. 東京: 医学出版社; 2010. p. 91-7.

【主な受賞】

- ・ 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 松本和紀, 松岡洋夫. 顕在発症後早期の psychosis に対する心理的アプローチ—個別的な早期支援プログラムの試み— 第5回日本統合失調症学会; 2010 Mar 26-27; 福岡.(奨励賞)

研究分野名	周産期看護学分野
-------	----------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授:佐藤喜根子、准教授:小山田信子、助教:佐藤眞理
大学院(修士課程)5名、卒業研究生5名

2. 主な研究テーマ

周産期看護学分野は、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を含む次世代の育成に繋がる子育てなど、女性や家族の健康に関することを、その時代に応じつつ様々な価値観の変化に伴う問題解決に対して、周産期女性やご家族が安心して生活することを支えるための助産活動の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 周産期にある女性のメンタルヘルスケアに関する研究
2. 周産期医療体制の研究
3. 妊婦における温泉浴の安全性の検証
4. 助産師の自立支援に必要な卒後教育体制に関する研究
5. 地方における看護・助産教育成立過程の研究
6. 学生の看護助産技術修得過程の研究
7. 災害後の母子保健活動に関する研究
8. 助産院における産後ケアに関する研究
9. 国際母子保健に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 小山田信子, 高橋みや子. 明治期の宮城県における看護婦の教育制度と身分法の成立過程-縣立宮城病院附属看護婦養成所開校までの背景-. 日本看護歴史学会誌. 2008;21:56-67.
- ・ 佐藤喜根子, 佐藤祥子. 妊娠期からの継続した心理的支援が周産期女性の不安・抑うつに及ぼす効果. 日本母性衛生. 2010;51:215-25.
- ・ 金澤悠介, 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊子. 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題. 大学入試研究ジャーナル. 2011:49-57.
- ・ 佐藤喜根子:東日本大震災が母親のメンタルヘルスに与えた影響,助産雑誌,10,858-863,2012. 東日本大震災が母親のメンタルヘルスに与えた影響. 助産雑誌. 2012;10:858-63.
- ・ 菊池綾子, 小山田信子, 佐藤喜根子, 佐藤祥子. 第2子誕生後2ヵ月経過した男性の家族に対する意識. 北日本看護学会誌. 2013;16:1-12.
- ・ Yoshii H, Saito H, Kikuchi S, Ueno T, Sato K. Maternal Anxiety 16 Months after the Great East Japan Earthquake Disaster Area: First Report. Health. 2014;6(10):870-8.
- ・ Yoshii H, Saito H, Kikuchi S, Ueno T, Sato K. Report on maternal anxiety 16 months after the great East Japan earthquake disaster: anxiety over radioactivity. Glob J Health Sci. 2014,6(6):36862.

【主な受賞】

- ・ 佐藤祥子, 塩野悦子. 初妊婦の自己概念の変化への戸惑い. 第24回日本助産学会学術集会; 2010 Mar 20-21; 筑波. (優秀ポスター賞)
- ・ 佐藤喜根子, 菊池笑加, 小山田信子, 佐藤祥子. 東日本大震災が子育て中(乳児期)の母親の心理に及ぼす影響. 第41回日本女性心身医学会; 2012 Aug 4-5; 東京. (優秀演題賞)
- ・ 菊池笑加, 佐藤喜根子, 小山田信子, 佐藤祥子. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態-東日本大震災から1年4ヶ月後の調査-. 第15回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台. (優秀ポスター賞)

研究分野名	ウィメンズヘルス看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2015年4月1日時点)

教授: 吉沢豊子、准教授: 跡上富美、助教: 中村康香、事務補佐員 2 名
大学院(博士後期課程)5名、大学院(博士前期課程)3名

2. 主な研究テーマ

女性の健康に係わることを広く研究し、一生涯にわたる女性の健康の向上およびQOLの向上を目指し、研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 家族形成時期の coparenting に関する研究
2. 女性の妊孕力の認識に関する研究
3. 妊娠期女性の活動量と周産期アウトカムとの関連に関する研究
4. 女性の下肢浮腫、冷え症に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 吉沢豊予子. 特集 看護学において若手研究者をどう育てるか? (I) 将来の看護学を構築する卓越した若手研究者をどう育てるか. 看護研究. 2014;47(1):6-13.
- ・ Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Remote community-based public health nursing during a disaster: an ethnographic case study in Japan. Australas Emerg Nurs J. 2014;17(3):106-11.
- ・ 跡上富美, 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚をした女性の妊娠経過における快適性の変化. 日本母性看護学会誌. 2014;14(1):50-6.
- ・ 日下裕子, 吉沢豊予子, 中野弘枝, 鈴木花菜, 千葉美貴, 竹内真帆, 中村康香. リンパ浮腫予防教育プログラムの開発—知識教育に焦点をあてて—. リンパ浮腫管理の研究と実践. 2013;1(1):33-41.
- ・ Takeuchi M, Yoshizawa T, Kusaka Y, Furusawa Y, Nakamura Y, Atogami F, Niikura H. Detecting subclinical secondary lymphoedema using bioimpedance: A preliminary study. J Lymphoedema; 2013;8(2):16-20.
- ・ 今村麻乃, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 入院している切迫早産妊婦の肯定的な体験について. 母性衛生. 2013;54(2):346-53.
- ・ Nakamura Y, Takeishi Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of the QOL in Japanese pregnant women: comparison among hospitalized, outpatient and non-pregnant women. Nurs Health Sci. 2012;14:182-8.
- ・ Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of maternal psychosocial adaptation in pre-labor hospitalized pregnant women in Japan. Nurs Rep. 2011;1(1):35-9.

【主な著書】

- ・ 新道幸恵(監). 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香(企画). メディカエクセレント DVD シリーズ 手掌圧が見てわかる! [分娩介助技術]-分娩介助のポジショニングと可視化された手掌圧で技術の向上に役立つ. 大阪: メディカ出版; 2013.
- ・ 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 新藤幸恵, 遠藤俊子. 新体系看護学全書 母性看護学 1 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護. 東京: メヂカルフレンド社; 2012.
- ・ 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 遠藤俊子, 新藤幸恵(編). 新体系看護学全書 母性看護学 2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. 東京: メヂカルフレンド社; 2012.

【主な受賞】

- ・ 武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. 第6回日本母性看護学会学術論文賞 2012.
- ・ 跡上富美. 平成23年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2012 Mar.
- ・ 中村康香. 第2回日本母性看護学会学術論文賞 2008.

2. カリキュラム

2-1. 学部カリキュラム

【平成 27 年度 看護学専攻専門教育科目】

区 分	授 業 科 目	単位数		時間	開設年次・セメスター・時間数								備 考																		
		必修	選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次																				
					1	2	3	4	5	6	7	8																			
専 門 基 礎 科 目	人間の理解科目	医療解剖学	2		60	30	30																								
		生体機能学Ⅰ	1		30	30																									
		生体機能学Ⅱ	1		30		30																								
		代謝学	2		30		30																								
		遺伝情報学 ※1		1	15																								15		
		免疫学	2		30				30																						
		発達心理学	1		15	15																									
		生命倫理	1		15		15																								
		病理学	2		30				30																						
		病原微生物学	1		30	30																									
		臨床薬理学	2		30					30																					
		家族関係論	1		15							15																			
		公衆衛生学	1		30					30																					
	健康の支援科目	社会保障制度論	1		15																								15		
		保健医療福祉行政論	1		15						15																				
		国際保健学	1		15																								15		
		食生活論	1		15				15																						
		運動生活論	1		15					15																					
		リハビリテーション学	1		15					15																					
		看護情報演習	1		30						30																				
		医療経済学		1	15																								15		
		看護管理・政策論	2		30																								30		
		看護教育学	1		15																									15	
		専 門 教 育 科 目	看護基幹科目	看護学原論Ⅰ	1		15	15																							
				看護学原論Ⅱ	1		15		15																						
				看護技術論Ⅰ	1		30			30																					
				看護技術論Ⅱ	2		60			30	30																				
看護技術論Ⅲ	1				30					30																					
看護技術論Ⅳ	1				30					30																					
看護研究原論	1				15						15																				
基礎看護学実習Ⅰ	1				45		45																								
基礎看護学実習Ⅱ	2				90						90																				
看護展開科目	成人看護学原論			1		15			15																						
	成人看護方法論Ⅰ		2		60				60																						
	成人看護方法論Ⅱ		2		60					60																					
	成人看護学実習Ⅰ		3		135										135																
	成人看護学実習Ⅱ		3		135										135																
	老年看護学原論		1		15			15																							
	老年看護方法論		2		60				60																						
	老年看護学実習		3		135										135																
	小児看護学原論		1		15			15																							
	小児看護方法論		2		60				30	30																					
小児看護学実習	3			135										135																	
精神看護学原論	1		15			15																									
精神看護方法論	2		60				60																								
精神看護学実習	3		135										135																		
女性健康科学原論	1		15			15																									
母性看護方法論	2		60					60																							
母性看護学実習	3		135										135																		
地域看護学原論	1		15			15																									
地域看護方法論	2		45				45																								
地域看護学実習	1		45						45																						
在宅看護論	1		30						30																						
緩和ケア看護論	1		15						15																						
助産学原論 ※1		1	15						15																						
助産診断学 ※1		2	60							60																					
助産技術学 ※1		3	90								30	60																			
助産管理論 ※1		1	15											15																	
新生児看護論 ※1		1	30							30																					
助産学実習 ※1		8	360											180	180																
総合科目	総合看護学実習	2		90										90																	
	学術英語	1		15						15																					
	チーム医療	1		15																							15				
	卒業研究	3		90											30	30	30														

卒業要件：全学教育科目41単位、専門教育科目86単位（専門基礎科目27単位、専攻専門科目59単位）、合計127単位以上修得
 ※開設セメスター等は変更する場合もあるので、その年度の時間割やシラバスで確認してください。

2-2. 大学院カリキュラム

【平成 27 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、前期 2 年の課程）】

科目区分	授業科目	一般コース		代表教員	科目区分	授業科目	一般コース		代表教員
		必修	選択				必修	選択	
共通 選択 科目	医療倫理学		1	浅井	看護学 領域	看護アセスメント学特論Ⅰ		2	丸山
	看護学研究方法論		2	吉沢		看護アセスメント学特論Ⅱ		2	丸山
	看護学研究のための統計学		2	宮下		看護アセスメント学セミナー		4	丸山
	看護倫理		2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅰ		2	朝倉
	理論看護学アプローチ		2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅱ		2	朝倉
	看護科学論Ⅰ		2	朝倉		看護教育・管理学特論セミナー		4	朝倉
	医療教育論		2	小山田		老年保健看護学特論		2	尾崎
	医療・看護政策論		2	末永		老年リハビリテーション看護学特論		2	尾崎
	がん科学		2	今谷		老年保健看護学セミナー		4	尾崎
	がん診療トレーニング		2	今谷		地域ケアシステム看護学特論Ⅰ		2	末永
	先端放射線科学概論		2	町田		地域ケアシステム看護学特論Ⅱ		2	末永
	検査医学概論		2	林		地域ケアシステム看護学セミナー		4	末永
	災害医学概論		2	張替		地域保健学セミナー		4	南
	医用動物学		1	三好		公衆衛生看護学特論Ⅰ		2	大森
	分子・遺伝生物学Ⅰ		1	中山（啓）		公衆衛生看護学特論Ⅱ		2	大森
医学統計学入門		2	山口	公衆衛生看護学セミナー		4	大森		
医学データ解析入門		2	山口						
特別研究 科目	論文研究	10		各指導教授	看護学 コース	公衆衛生看護学原論		2	大森
	課題研究	5		各指導教員		公衆衛生看護学活動論Ⅰ		2	大森
						公衆衛生看護学活動論Ⅱ		4	大森
						地域ケアシステム看護学活動論Ⅰ		4	末永
						地域ケアシステム看護学活動論Ⅱ		4	末永
						疫学		2	南
						保健統計学		2	南
						保健医療福祉行政特論		3	南
						公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	大森
						公衆衛生看護学実習Ⅱ		2	大森
						地域ケアシステム看護学実習Ⅰ		3	末永
						地域ケアシステム看護学実習Ⅱ		3	末永
						公共哲学		2	末永
						社会システム論		2	末永
						環境保健論		2	南
					災害メンタルヘルス論		2	富田[災害]	
					コンサルテーション論		2	塩飽	
					臨床薬理学		2	今谷	
					フィジカルアセスメント		2	佐藤(富)	
					病態生理学		2	塩飽	
					がん看護学特論Ⅰ		2	佐藤(富)	
					がん看護学特論Ⅱ		2	佐藤(富)	
					がん看護学セミナーⅠ		2	佐藤(富)	
					がん看護学セミナーⅡ		2	佐藤(富)	
					緩和ケア看護学特論Ⅰ		2	宮下	
					緩和ケア看護学特論Ⅱ		2	宮下	
					緩和ケアトレーニング		1	宮下	
					緩和ケア看護学セミナーⅠ		2	宮下	
					緩和ケア看護学セミナーⅡ		2	宮下	
					がん看護専門看護学実習Ⅰ		2	佐藤(富)	
					がん看護専門看護学実習Ⅱ		6	佐藤(富)	
					がん看護専門看護学実習Ⅲ		2	宮下	
					小児看護学特論Ⅰ		2	塩飽	
					小児看護学特論Ⅱ		2	塩飽	
					小児看護学セミナーⅠ		4	塩飽	
					小児看護学セミナーⅡ		2	塩飽	
					小児看護学セミナーⅢ		2	塩飽	
					小児専門看護学実習Ⅰ		2	塩飽	
					小児専門看護学実習Ⅱ		8	塩飽	
					リエゾン精神看護論		2	齋藤(秀)	
					家族のメンタルヘルス論		2	齋藤(秀)	
					精神保健看護学セミナー		4	齋藤(秀)	
					周産期看護学特論		2	佐藤(喜)	
					周産期メンタルヘルスクエ論		2	佐藤(喜)	
					周産期看護学セミナー		4	佐藤(喜)	
					女性生涯看護学特論Ⅰ		2	吉沢	
					女性生涯看護学特論Ⅱ		2	吉沢	
					ウィメンズヘルス看護学セミナー		4	吉沢	

【平成 27 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、後期 3 年の課程）】

科目区分	授業科目	必修	選択	代表教員	科目区分	授業科目	必修	選択	代表教員
共通科目	共通選択科目	健康科学論	2	高橋 丸山 齋藤(春)	専門科目	看護学コース	基礎・健康開発看護学セミナーⅠ	2	丸山
							基礎・健康開発看護学セミナーⅡ	2	末永
							家族支援看護学セミナーⅠ	2	塩飽
							家族支援看護学セミナーⅡ	2	吉沢
							基礎・健康開発看護学特論	2	丸山
							家族支援看護学特論	2	塩飽
特別研究科目	保健学論文研究	8		各指導教授					

※次の各号により、16単位以上を修得すること。

1. 共通科目のうちから、指導教員の指示により、2単位以上。
2. 領域別の専門科目から、指導教員の指示により、4単位以上。
3. 保健学論文研究8単位。

3. 教員一覧（2015年4月現在）

【基礎・健康開発看護学領域】

看護アセスメント学

- 教授 丸山良子 (看護師・保健師、博士 (医学))
講師 菅野恵美 (看護師・保健師、博士 (医学))
助手 丹野寛大 (看護師・保健師、修士 (医科学))

看護教育・管理学

- 教授 朝倉京子 (看護師・保健師、博士 (看護学))
助手 原ゆかり (看護師・保健師) 学士 (看護学))

老年・在宅看護学

- 教授 尾崎章子 (看護師・保健師、博士 (看護学))
講師 齋藤美華 (看護師・保健師、博士 (看護学))
助手 東海林志保 (看護師・保健師)、学士 (看護学))

地域ケアシステム看護学

- 教授 末永カツ子 (看護師・保健師、博士 (教育学))
准教授 高橋香子 (看護師・保健師、修士 (障害科学))
助教 栗本鮎美 (看護師・保健師、修士 (医科学))

公衆衛生看護学

- 教授 大森純子 (看護師・保健師、博士 (看護学))
助教 田口敦子 (看護師・保健師、博士 (医学))

地域保健学

- 教授 南優子 (医師、博士 (医学))

【家族支援看護学領域】

成人看護学

- 教授 今谷晃 (医師、博士 (医学))
講師 菊地史子 (看護師、博士 (障害科学))

がん看護学

- 教授 佐藤富美子 (看護師・保健師、博士 (看護学))
助教 佐藤菜保子 (看護師、博士 (医学))
助手 須藤久実 (看護師・助産師、修士 (看護学))

緩和ケア看護学

- 教授 宮下光令 (看護師・保健師、博士 (保健学))
助教 佐藤一樹 (看護師・保健師、博士 (保健学))

小児看護学

- 教授 塩飽仁 (看護師・保健師、博士 (医学))
助教 鈴木祐子 (看護師・保健師、修士 (看護学))
助手 井上由紀子 (看護師・保健師、修士 (看護学)、小児看護専門看護師)

※東北大学病院助手と兼務

精神看護学

- 教授 齋藤秀光 (医師、博士 (医学))
准教授 吉井初美 (看護師・精神保健福祉士、博士 (医学))
助教 光永憲香 (看護師・保健師、修士 (看護学))
助手 柴田裕希 (看護師・保健師、学士 (看護学))

周産期看護学

- 教授 佐藤喜根子 (看護師・助産師、博士 (教育学))
准教授 小山田信子 (看護師・助産師、修士 (看護学))
助教 佐藤真理 (看護師・助産師、博士 (看護学))

ウィメンズヘルス看護学

- 教授 吉沢豊子 (看護師・助産師・保健師、博士 (看護学))
准教授 跡上富美 (看護師・助産師・保健師、博士 (健康科学))
助教 中村康香 (看護師・助産師・保健師、博士 (看護学))

※学位の記載形式は、「学位 (専攻分野)」で統一した

(例えば、実際に授与された学位は「博士 (医学)」ではなく「医学博士」である場合がある)

4. 各種データ

4-1. 学部入試情報

【一般入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 16 年度入学試験（前期）	50	130	2.6 倍	54	51
平成 16 年度入学試験（後期）	20	140	7.0 倍	20 (1)	18
平成 17 年度入学試験（前期）	50	120	2.4 倍	56	53
平成 17 年度入学試験（後期）	20	110	5.5 倍	22	19
平成 18 年度入学試験（前期）	50	91	1.8 倍	56	51
平成 18 年度入学試験（後期）	20	108	5.4 倍	24 (2)	19
平成 19 年度入学試験（前期）	50	111	2.2 倍	56	52
平成 19 年度入学試験（後期）	20	88	4.4 倍	25 (1)	17
平成 20 年度入学試験	55	114	2.1 倍	56	53
平成 21 年度入学試験	55	123	2.2 倍	57	54
平成 22 年度入学試験	55	167	3.0 倍	56	52
平成 23 年度入学試験	55	156	2.8 倍	58	57
平成 24 年度入学試験	55	140	2.5 倍	56	53
平成 25 年度入学試験	55	134	2.4 倍	58	52
平成 26 年度入学試験	55	123	2.2 倍	60	55
平成 27 年度入学試験	55	153	2.8 倍	60	53

※「合格者」は追加合格者の人数を含まない、（ ）内は追加合格者の人数を示す

【AO 入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 20 年度入学試験（AO）	15	55	3.7 倍	19	19
平成 21 年度入学試験（AO）	15	43	2.9 倍	17	17
平成 22 年度入学試験（AO）	15	54	3.6 倍	20	20
平成 23 年度入学試験（AO）	15	49	3.3 倍	17	17
平成 24 年度入学試験（AO）	15	57	3.8 倍	15	15
平成 25 年度入学試験（AO）	15	35	2.3 倍	16	16
平成 26 年度入学試験（AO）	15	34	2.3 倍	15	15
平成 27 年度入学試験（AO）	15	40	2.7 倍	16	16

4-2. 大学院入試情報

【修士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者		
					全体	保健師 選択	専門看護師 コース
平成 20 年度入学試験	24	21	0.9 倍	17	17	-	1
平成 21 年度入学試験	24	13	0.5 倍	11	10	-	3
平成 22 年度入学試験	24	21	0.9 倍	16	14	-	3
平成 23 年度入学試験	24	15	0.6 倍	13	13	-	5
平成 24 年度入学試験	24	13	0.5 倍	12	11	-	3
平成 25 年度入学試験	24	11	0.5 倍	9	9	-	2
平成 26 年度入学試験	24	15	0.6 倍	11	11	1	4
平成 27 年度入学試験	24	22	0.9 倍	19	18	1	6

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

【博士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 22 年度入学試験	10	4	0.4 倍	4	4
平成 23 年度入学試験	10	5	0.5 倍	4	4
平成 24 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 25 年度入学試験	10	12	1.2 倍	10	8
平成 26 年度入学試験	10	6	0.6 倍	4	3
平成 27 年度入学試験	10	13	1.3 倍	10	10

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

4-3. 学部卒業後の進路

【国家試験受験資格取得状況（新卒者）】

	保健師	助産師	看護師
平成 19 年度卒業	73	20	63
平成 20 年度卒業	76	15	66
平成 21 年度卒業	73	15	63
平成 22 年度卒業	80	16	70
平成 23 年度卒業	69	13	66
平成 24 年度卒業	73	15	71
平成 25 年度卒業	69	13	69
平成 26 年度卒業	76	13	76

※ 助産師コースは選抜制

【国家試験合格状況（新卒者+既卒者）】

	保健師			助産師			看護師		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成 19 年度施行	73	69	95%	20	19	95%	64	63	98%
平成 20 年度施行	77	77	100%	16	16	100%	67	65	97%
平成 21 年度施行	73	68	93%	15	8	53%	63	63	100%
平成 22 年度施行	81	79	98%	19	19	100%	70	70	100%
平成 23 年度施行	73	70	96%	13	13	100%	66	66	100%
平成 24 年度施行	75	74	99%	16	15	94%	71	68	96%
平成 25 年度施行	70	67	96%	14	12	86%	72	72	100%
平成 26 年度施行	78	78	100%	14	14	100%	76	75	99%

【学部卒業後の進路】

	卒業数	就職				進学		
		看護師	助産師	保健師	一般職	大学院	各種学校・大学等	その他
平成 19 年度卒業	73	35	14 (1)	8	1	8 (1)	5	3
平成 20 年度卒業	76	38	9	14	2	6	5	2
平成 21 年度卒業	73	45 (1)	8 (1)	8 (1)	2	9 (1)	2	1
平成 22 年度卒業	80	62 (11)	15 (11)	6	0	4	3	1
平成 23 年度卒業	69	44 (4)	12 (4)	12	1	1	1	2
平成 24 年度卒業	73	49 (3)	12 (3)	5	1	7	1	1
平成 25 年度卒業	69	42 (1)	11 (1)	9	0	8	0	0
平成 26 年度卒業	76	49	9	10	1	5	2	0

※ () は、重複してカウントした人数

4-4. 大学院修了後の進路

【修士課程】

	学位取得	博士課程 進学	大学教員	看護学校 教員	看護師・ 助産師	保健師	その他
平成 21 年度修了	8	1	1	0	5	0	1
平成 22 年度修了	10	1	1	0	6	2	0
平成 23 年度修了	13	2 (1)	2 (1)	1	6	2	1
平成 24 年度修了	16	2	0	0	11	1	2
平成 25 年度修了	9	2	0	0	6	0	1
平成 26 年度修了	11	0	2	0	7	0	1

※ () は、重複してカウントした数

※ 社会人院生であった学生が博士課程に進学後も仕事を継続した場合は、就職者には含まなかった

【専門看護師取得状況】（認定数は 2015 年 3 月現在）

	がん看護専門看護師		小児看護専門看護師	
	修了数	認定数	修了数	認定数
平成 21 年度修了	0	—	—	—
平成 22 年度修了	2	2 (100%)	—	—
平成 23 年度修了	1	0 (0%)	—	—
平成 24 年度修了	2	2 (100%)	6	4 (67%)
平成 25 年度修了	2	2 (100%)	1	0 (0%)

※ 「修了者」は、専門看護師認定審査の受験資格を有する修了者の人数

※ 「認定数」は、専門看護師の認定審査に合格したものの人数

※ 専門看護師認定審査の有資格者のなかには、専門看護師の認定を希望しない者も含まれる

【博士課程】

	学位取得	教育機関・研究機関		看護師・ 助産師	保健師	その他
		大学教員	その他			
平成 24 年度修了	0	—	—	—	—	—
平成 25 年度修了	2	1	1	0	0	0
平成 26 年度修了	4	3	0	0	0	1

4-5. 大学院修了者の学位論文一覧

【修士課程】

平成 21 年度（2009 年度）

- ・ 鎌田美千代. 看護師の与薬業務における医療情報と医療行為の乖離の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 河村真人. 長野県佐久地域の 2008/09 シーズンにおける季節性インフルエンザ流行時での医療機関受診の検討. (丸山良子教授)
- ・ 佐々木康之輔. Evaluation of respiratory pattern on human heart rate variability (心拍変動における呼吸の評価). (丸山良子教授)
- ・ 庄司香織. エストロゲンと加齢が自律神経活動の調節に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 関智示. 褥婦に出現する産褥早期の下肢浮腫の経時的変化と弾性ストッキングの効果に関する検討. (吉沢豊子教授)
- ・ 武石陽子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. (吉沢豊子教授)
- ・ 武田晶子. 子どもの病気のイメージと「自分の病気について知ること」の意識および保護者の意識の実態とそれらの関連. (塩飽仁教授)
- ・ 松井憲子. 敗血症と全身性炎症反応症候群患者の自律神経活動の変化について. (丸山良子教授)

平成 22 年度（2010 年度）

- ・ 青木咲奈枝. がん患者の外来放射線治療による有害事象の苦痛度とクオリティ・オブ・ライフの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 伊藤加奈子. 中堅保健師の OJT と実践コミュニティに関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 桂田かおり. 死産・新生児死亡を経験した父親の「子どもの死の実感プロセス」. (佐藤喜根子教授)
- ・ 鎌倉美穂. 貯血式自己血採血をモデルとした循環血液量減少が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 坂村佐知. 妊娠先行型結婚夫婦の関係性が養育環境に及ぼす影響—早産児を出産した女性を対象にして—. (吉沢豊子教授)
- ・ 佐々木理衣. 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気がかりとソーシャル・サポートの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 千葉春香. 出生体重が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 永井瑞希. 女子長距離選手における月経異常が自律神経系・心血管系・運動パフォーマンスに及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 芳賀麻有. 睡眠時姿勢特性と自律神経活動および呼吸機能との関連性の検討. (丸山良子教授)
- ・ 平尾由美子. 在宅療養高齢者の足爪白癬の罹患状況、管理の実態、および QOL への影響に関する研究. (川原礼子教授)

平成 23 年度（2011 年度）

- ・ 荒屋敷純子. 東日本大震災発生から一週間の看護職の労働実態～性別・婚姻が災害時の労働に与えた影響～. (吉沢豊子教授)
- ・ 井上芙蓉子. がん診療に携わる看護師の緩和ケアに関する知識・困難感・実践の実態と関連要因—日本の 4 地域全体を対象とした多施設調査—. (宮下光令教授)

- ・ 岡野恵. 小児病棟に勤務するチャイルドライフスペシャリストの役割と機能に関する研究～子ども中心の医療を推進するスペシャリストとは～. (平野かよ子教授)
- ・ 菊池綾子. 第2子誕生後2か月経過した男性の家族に対する意識. (佐藤喜根子教授)
- ・ 熊谷賀代. 正常新生児の生後1か月までの体重増減量と完全母乳育児継続の関連要因の明確化. (吉沢豊子教授)
- ・ 小松恵. 高齢者の看取りにおいて、訪問看護師が「よい」あるいは「心残り」と感じた背景の研究. (川原礼子教授)
- ・ 佐々木久美子. 産業看護職におけるCSR(企業の社会的責任)の認識プロセス. (末永カツ子教授)
- ・ 品川優理. 乳癌患者に対する喫煙の影響—乳癌細胞株とタバコ煙抽出物を用いた検討—. (丸山良子教授)
- ・ 高橋奈津子. 介護老人保健施設に入所している高齢者の下肢浮腫に関する調査—加齢、日常生活における影響因子、および利尿薬との関連性について—. (川原礼子教授)
- ・ 竹内真帆. Changes in the lower limb of patients before and after Gynecologic surgery including LND: implication for early lymphedema assessment (婦人科リンパ節廓清術後の下肢の変化—続発性リンパ浮腫の早期発見に向けて—). (吉沢豊子教授)
- ・ 丹治史也. Personality and All-cause, Cause-specific Mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study (パーソナリティと全死因、死因別死亡リスクに関する前向きコホート研究). (南優子教授)
- ・ 成沢香織. 外来で分子標的治療を受けているがん患者の症状体験とQOLの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 藪田歩. 統合失調症をもつ患者の家族心理教育の効果. (齋藤秀光教授)

平成24年度(2012年度)

- ・ 五十嵐美幸. がん患者の死亡場所に関連する要因—死亡票情報を用いた分析と都道府県別医療社会的指標を用いた分析. (川原礼子教授)
- ・ 石川涼. 知的障害を伴わない発達障害をもつ子どもの発見から就学における関係者の役割および連携に関する実態調査. (塩飽仁教授)
- ・ 烏日古木拉. 出生体重が血圧および自律神経活動に及ぼす影響—モンゴル族の若年成人を対象にした検証. (丸山良子教授)
- ・ 菅野雄介. 看護師による看取りのケアの質の評価尺度の信頼性・妥当性と関連要因の探索. (宮下光令教授)
- ・ 菊池笑加. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態—東日本大震災から1年4か月後の調査—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 日下由利子. 看護師と患児および保護者が認識する病名と病状説明時における看護師の対応についての実態調査. (塩飽仁教授)
- ・ 佐山恭子. 入院した子どものきょうだいと母親が評価するきょうだい自身の人格的成長に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・ 関貴子. 喫煙と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究. (南優子教授)
- ・ 高田望. 看護師の「集中治療室における積極的治療から看取りの医療」への意思決定参画に関する基礎的研究. (平野かよ子教授)
- ・ 千葉みゆき. 化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応に関連する要因の検討. (佐藤富美子教授)

- ・ 名古屋祐子. 遺族と医療者への面接から得られた看取りの時期にある小児がんの子どもと家族に必要な要素. (塩飽仁教授)
- ・ 納谷さくら. がん患者のオピオイドに対する懸念と疼痛コントロールの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 真溪淳子. アクションラーニングによる地域看護管理者研修の意義. (末永カツ子教授)
- ・ 三谷綾子. 青年期以降の胆道閉鎖症患者の QOL とレジリエンスの特徴に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・ 門間典子. 大学病院に勤務する中高年看護師の仕事継続要因の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 谷地館千恵. 看護師が認識する子どものターミナルケアについてのインタビュー調査. (塩飽仁教授)

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 菅野喜久子. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究. (宮下光令教授)
- ・ 木村智一. 児童養護施設の福祉職, 施設長, 看護師がとらえている児童養護施設の看護師の現状と役割の実態調査. (塩飽仁教授)
- ・ 日下裕子. リンパ浮腫発症の可能性に直面した時に感じる不本意さと不確かさ—婦人科がんサバイバーの経験から—. (吉沢豊子教授)
- ・ 下條祐也. 妻・母親役割を担う看護職の職業継続意思に影響する要因の検討—両立支援的組織風土に注目して—. (朝倉京子教授)
- ・ 長坂沙紀. 高機能広汎性発達障害当事者がセルフアドボカシー活動を行うまでの体験. (末永カツ子教授)
- ・ 包薩日娜. Effect of low birth weight on inflammation biomarkers and autonomic function in healthy young adults (若年健常者における出生体重が炎症性マーカーおよび自律神経機能に及ぼす影響). (丸山良子教授)
- ・ 本田涼. 第 2 子が NICU に入院した母親の第 1 子への思いと対応. (佐藤喜根子教授)
- ・ 三滝亜弥. 産業看護職が体験するリアリティショックと対処に関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 横田則子. 外来で化学療法を受けるがん患者の埋め込み型中心静脈ポート留置部位と生活の支障との関連. (佐藤富美子教授)

平成 26 年度 (2014 年度)

- ・ 岩淵正博. 終末期医療に関する意思決定者の実態と受ける医療や Quality of Life への影響. (宮下光令教授)
- ・ 熊谷清美. メキシコにおける妊婦と子育て中の母親の愛着—接触行動との関連—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 坂田あゆみ. 産後 4 カ月の母親のソーシャルサポートに対する認識—被災地域の子育て環境から—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 佐藤遥. 側臥位と自律神経活動および循環動態の性差について. (丸山良子教授)
- ・ 鈴木千鶴. 食物アレルギーの子どもをもつ母親の困難感と対処行動. (塩飽仁教授)
- ・ 高橋恵美子. 東日本大震災が不妊に悩む女性に及ぼした影響—ART を受けている女性の現状—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 長橋美栄子. 看護師免許を有する養護教諭と有しない養護教諭における業務上の困難感に関する研究. (齋藤秀光教授)

- ・ 三浦恵美. 看護師長が認識する **successful** な部署運営に関する研究. (朝倉京子教授)
- ・ 柳本千景. 外来化学療法を受けているがん患者の倦怠感マネジメントバリアに影響する要因の検討.
(佐藤富美子教授)
- ・ 吉田明莉. 無侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT) 受検者が妊娠中に抱いた思い. (吉沢豊子教授)
- ・ 横山千恵. 特別支援学校に勤務する看護師が役割を遂行するために必要な要素. (塩飽仁教授)

【博士課程】

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 有永洋子. アロマセラピーと簡易エクササイズを用いたセルフケアプログラムによる乳がん治療関連リンパ浮腫管理に関する研究 (佐藤富美子教授)
- ・ 清水恵. 受療行動調査におけるがん患者の療養生活の質の評価のための項目の適切性に関する研究
(宮下光令教授)

平成 26 年度 (2014 年度)

- ・ 阿部亜希子. 災害をきっかけとした保健師の創発的活動に関する研究—東日本大震災時の保健師活動の分析を通して—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 佐々木康之輔. 健常成人における左右側臥位時の心臓自律神経活動および循環動態の変化に関する基礎的検討. (丸山良子教授)
- ・ 佐藤眞理. エスノグラフィの分析を通して見えてくる被災した町の保健師の経験. (吉沢豊子教授)
- ・ 高橋葉子. 東日本大震災後における被災地看護師のメンタルヘルス—職場の被災による影響—. (齋藤秀光教授)

4-6. 業績数の推移

【業績数の推移】

	原著論文・総説 (査読あり)		原著論文・総説 (査読なし)、 紀要、解説	著書	国際学会 発表	国内学会 発表
	英文論文	和文論文				
平成 20 年 (2008 年)	4	11	20	9	3	44
平成 21 年 (2009 年)	7	6	13	6	8	56
平成 22 年 (2010 年)	20	11	23	6	17	114
平成 23 年 (2011 年)	17	14	24	10	10	84
平成 24 年 (2012 年)	30	22	17	9	22	89
平成 25 年 (2013 年)	24	25	27	9	13	115
平成 26 年 (2014 年)	29	16	30	16	19	112
合計	131	105	154	65	92	614

※ 大学院が設置された 2008 年以降のもの

※ 教員・学生が保健学専攻に所属している期間中に発表された業績のみを数えた

※ 査読のない原著論文は「原著論文・総説 (査読なし)、紀要、解説」に含めた

※ 重複カウントあり

【外部資金獲得の推移】

	新規研究費		継続研究費		その他 外部資金
	主任研究	分担研究	主任研究	分担研究	
平成 20 年度 (2008 年度)	11	6	4	2	0
平成 21 年度 (2009 年度)	8	9	10	6	0
平成 22 年度 (2010 年度)	11	7	11	14	3
平成 23 年度 (2011 年度)	14	5	14	13	1
平成 24 年度 (2012 年度)	20	13	19	11	3
平成 25 年度 (2013 年度)	19	23	22	18	0
平成 26 年度 (2014 年度)	9	5	24	30	0
合計	92	68	104	94	7

※ 大学院が設置された 2008 年 4 月以降のもの

※ 継続研究費は延数

5. 研究業績 (2014年1月～2014年12月)

5-1. 原著論文・総説 (査読あり)

【看護アセスメント学分野】

1. Horiguchi M, Tanaka G, Ogasawara H, Maruyama R. Validation and gender-based comparison of the eating behavior scale for Japanese young adults. *Psychology*. 2014;5:2173-9.
2. Sasaki K, Maruyama R. Consciously Controlled Breathing Decreases the High-Frequency Component of Heart Rate Variability by Inhibiting Cardiac Parasympathetic Nerve Activity. *Tohoku J Exp Med*. 2014;233(3): 155-63.
3. Tanno D, Akahori Y, Toyama M, Sato K, Kudo D, Abe Y, Miyasaka T, Yamamoto H, Ishii K, Kanno E, Maruyama R, Kushimoto S, Iwakura Y, Kawakami K. Involvement of Gr-1dull+ cells in the production of TNF- α and IL-17 and exacerbated systemic inflammatory response caused by lipopolysaccharide. *Inflammation*. 2014;37(1): 186-195.
4. 丸山良子. 微小粒子状物質の健康影響 自律神経への影響を測定する. *クリーンテクノロジー*. 2014; 24(2):35-9.

【看護教育・管理学分野】

5. 朝倉京子. 看護師の専門職化はどう評価できるのか. *保健医療社会学論集*. 2014;25(2):1-6.

【老年・在宅看護学分野】

6. 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. *日本公衆衛生看護学会誌*. 2014;3(1):40-8.

【地域ケアシステム看護学分野】

7. Imai E, Tsubota-Utsugi M, Kikuya M, Satoh M, Inoue R, Hosaka M, Metoki H, Fukushima N, Kurimoto A, Hirose T, Asayama K, Imai Y, Ohkubo T. Animal Protein Intake Is Associated with Higher-Level Functional Capacity in Elderly Adults: The Ohasama Study. *J Am Geriatr Soc*. 2014;62(3):426-34.

【公衆衛生看護学分野】

8. 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. *日本公衆衛生看護学会誌*. 2014;3(1):40-8.
9. 坂田祥, 成瀬昂, 田口敦子, 村嶋幸代. 幼児の行動特性別にみた母親の育児困難感とその関連要因. *日本公衆衛生雑誌*. 2014;61(1):3-15.
10. Taguchi A, Naruse T, Kuwahara Y, Matsunaga A, Nagata S, Murashima S. Characteristics of clients using home-visiting nursing services at nighttime and early morning in Japan -Focusing on clients' cancellation of services of visiting nurses at nighttime and early morning. *Home Health Care Manage Pract*. 2014;26(4):250-6.
11. Taguchi A, Nagata S, Naruse T, Nagata S, Yamaguchi T, Murashima S. Identification of the need for home visiting nurse: development of a new assessment tool. *Int J Integr Care*. 2014;14:14:e008.

【地域保健学分野】

12. Nishino Y, Minami Y, Kawai M, Fukamachi K, Sato I, Ohuchi N, Kakugawa Y. Cigarette smoking and breast cancer risk in relation to joint estrogen and progesterone receptor status: a case-control study in Japan. *Springerplus*. 2014;3:65.

【がん看護学分野】

13. Sato F, Ishida T, Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer: a controlled trial. *Tohoku J Exp Med*. 2014;232(2):115-22.
14. Sato N, Takagi K, Suzuki T, Miki Y, Tanaka S, Nagase S, Warita H, Fukudo S, Sato F, Sasano H, Ito K.. Immunolocalization of corticotropin-releasing hormone (CRH) and its receptors

(CRHR1 and CRHR2) in human endometrial carcinoma: CRHR1 as a potent prognostic factor. *Int J Gynecol Cancer*. 2014;24(9):1549-57.

15. 成沢香織, 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. 外来で分子標的治療を受ける患者の症状体験とQOLの関連. *日本がん看護学会誌*. 2014;28(3):5-12.

【緩和ケア看護学分野】

16. Ando M, Tsuda A, Morita T, Miyashita M, Sanjo M, Shima Y. A Pilot Study of Adaptation of the Transtheoretical Model to Narratives of Bereaved Family Members in the Bereavement Life Review. *Am J Hosp Palliat Med*. 2014;31(4):422-7.
17. Fujisawa D, Umezawa S, Basaki-Tange A, Fujimori M, Miyashita M. Smoking status, service use and associated factors among Japanese cancer survivors - a web-based survey. *Support Care Cancer*. 2014;22(12):3125-34.
18. Hirooka K, Miyashita M, Morita T, Ichikawa T, Yoshida S, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. Regional medical professionals' confidence in providing palliative care, associated difficulties, and availability of specialized palliative care services in Japan. *Jpn J Clin Oncol*. 2014;44(3):249-56.
19. Igarashi A, Miyashita M, Morita T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. A population-based survey on perceptions of opioid treatment and palliative care units: OPTIM study. *Am J Hosp Palliat Med*. 2014;31(2):155-60
20. Maeda I, Tsuneto S, Miyashita M, Morita T, Umeda M, Motoyama M, Kosako F, Hama Y, Kizawa Y, Sasahara T, Eguchi K. Progressive development and enhancement of palliative care services in Japan: nationwide surveys of designated cancer care hospitals for three consecutive years. *J Pain Symptom Manage*. 2014;48(3):364-73
21. Miyajima K, Fujisawa D, Yoshimura K, Ito M, Nakajima S, Shirahase J, Mimura M, Miyashita M. Association between quality of end-of-life care and possible complicated grief among bereaved family members. *J Palliat Med*. 2014;17(9):1025-31
22. Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Tsuneto S, Shima Y. Care Evaluation Scale-Patient version: Measuring the quality of the structure and process of palliative care from the patient's perspective. *J Pain Symptom Manage*. 2014;48(1):110-8
23. Momino K, Akechi T, Yamashita T, Fujita T, Hayashi H, Tsunoda N, Miyashita M, Iwata H. Psychometric properties of the Japanese version of the Concerns about Recurrence Scale (CARS-J). *Jpn J Clin Oncol*. 2014;44(5):456-62
24. Morita T, Kuriya M, Miyashita M, Sato K, Eguchi K, Akechi T. Symptom burden and achievement of good death of elderly cancer patients. *J Palliat Med*. 2014;17(8):887-93
25. Morita T, Sato K, Miyashita M, Yamagishi A, Kizawa Y, Shima Y, Kinoshita H, Suzuki S, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Does a regional comprehensive palliative care program improve pain in outpatient cancer patients? *Support Care Cancer*. 2014;22(9):2445-55.
26. Morita T, Tamura K, Kusajima E, Sakai S, Kawa M, Imura C, Ichihara K, Miyashita M, Yamaguchi T, Uchitomi Y. Nurse Education Program on Meaninglessness in Terminally Ill Cancer Patients: A Randomized Controlled Study of a Novel Two-Day Workshop. *J Palliat Med*. 2014;17(12):1298-305.
27. Sato K, Inoue Y, Umeda M, Ishigamori I, Igarashi A, Togashi S, Harada K, Miyashita M, Sakuma Y, Oki J, Yoshihara R, Eguchi K. A Japanese region-wide survey of the knowledge, difficulties, and self-reported palliative care practices among nurses. *Jpn J Clin Oncol*. 2014;44(8):718-28
28. Sato K, Shimizu M, Miyashita M. Which quality of life instruments are preferred by cancer patients in Japan? Comparison of the European Organization for Research and Treatment of

Cancer Quality of Life Questionnaire-C30, and the Functional Assessment of Cancer Therapy-General. *Support Care Cancer*. 2014;22(12):3135-41

29. Shimizu Y, Miyashita M, Morita T, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Care Care Strategy for Death Rattle in Terminally Ill Cancer Patients and Their Family Members: Recommendations From a Cross-sectional Nationwide Survey of Bereaved Family Members' Perceptions. *J Pain Symptom Manage*. 2014;48(1):2-12
30. Yamagishi A, Sato K, Miyashita M, Shima Y, Kizawa Y, Umeda M, Kinoshita H, Shiragige Y, Akiyama M, Yamaguchi T, Morita T. Changes in quality of care and quality of life of outpatients with advanced cancer after a regional palliative care intervention program. *J Pain Symptom Manage*. 2014;48(4):602-10.
31. 五十嵐美幸, 佐藤一樹, 清水恵, 菅野雄介, 菅野喜久子, 川原礼子, 宮下光令. がん死亡および全死因の都道府県別自宅死亡割合と医療社会的指標の地域相関分析. *Palliat Care Res*. 2014;9(2):114-21.
32. 木下里美, 藤澤大介, 中島聡美, 伊藤正哉, 宮下光令. 救急外来とICUで死別を体験した家族の複雑性悲嘆:一般病棟との比較. *日本集中治療医学会雑誌*. 2014;21(2):199-203.
33. 菅野喜久子, 木下寛也, 森田達也, 佐藤一樹, 清水恵, 秋山聖子, 村上雅彦, 宮下光令. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん患者の緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究. *Palliat Care Res*. 2014;9(4):131-9
34. 菅野雄介, 平原優美, 松村優子, 八杉まゆみ, 川村幸子, 古賀友之, 茅根義和, 宮下光令.在宅緩和ケアにおけるLiverpool Care Pathway日本語版在宅バージョンの開発と実施可能性の検証. *Palliat Care Res*. 2014;9(4):112-20
35. 佐野知美, 草島悦子, 白井由紀, 瀬戸山真理子, 玉井照枝, 廣岡佳代, 佐藤隆裕, 宮下光令, 河正子, 岡部健. 在宅終末期がん患者家族介護者の死別後の成長感と看取りに関する体験との関連. *Palliat Care Res*. 2014;9(3):140-50
36. 竹内真帆, 清水恵, 森田達也, 佐藤一樹, 今野美咲, 佐藤香織, 内山美里, 高橋なつき, 泉佳那, 三浦世理佳, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 緩和ケア病棟で死亡したがん患者の遺族による緩和ケアの質の評価と施設要因の関連—遺族 5810名の全国調査から—. *Palliat Care Res*. 2014;9(4):101-11
37. 宮下光令, 小野寺麻衣, 熊田真紀子, 大桐規子, 浅野玲子, 小笠原喜美代, 後藤あき子, 柴田弘子, 庄子由美, 仙石美枝子, 山内かず子, 門間典子. 東北大学病院の看護師のがん看護に関する困難感とその関連要因. *Palliat Care Res*. 2014;9(3):158-66.

【小児看護学分野】

38. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 槌谷由美子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一. 看護師が抱く子どもの終末期ケアを行う上での障壁と困難. *日本小児看護学会誌*. 2014;23(3):49-55.
39. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 木村智一. 治癒が難しい状況にあると告げられた小児がんの子ども両親は治療方針に関する意思決定をどのように行ったのか. *北日本看護学会誌*. 2014;17(1):11-7.

【精神看護学分野】

40. Ling Y, Watanabe M, Yoshii H, Akazawa K. Characteristics linked to the reduction of stigma towards schizophrenia: a pre-and-post study of parents of adolescents attending an educational program. *BMC Public Health*. 2014;14:258.
41. Yoshii H. Reasons for workplace mental illness disclosure and non-disclosure in Japan. *Health*. 2014;6:1780-9.
42. Yoshii H, Saito H, Kikuchi S, Ueno T, Sato K. Maternal anxiety 16 months after the great east Japan earthquake disaster area: First report. *Health*. 2014;6:870-8.
43. Yoshii H, Saito H, Kikuchi S, Ueno T, Sato K. Report on maternal anxiety 16 months after the great east Japan earthquake disaster: Anxiety over radioactivity. *Glob J Health Sci*. 2014;6(6):1-10.

【周産期看護学分野】

44. Nishigori H, Sugawara J, Obara T, Nishigori T, Sato K, Sugiyama T, Okamura K, Yaegashi N. Surveys of postpartum depression in Miyagi, Japan, after the Great East Japan Earthquake. Arch Womens Ment Health. 2014;17(6):579-81
45. 佐藤喜根子, 菊池笑加, 佐藤祥子, 小山田信子. 東日本大震災時に周産期であった女性の1年4カ月後の心身の健康—夫婦の関係性についての満足度から—. 女性心身医学. 2014;19(2):197-203.

5-2. 原著論文・総説(査読なし)、紀要、解説

【老年・在宅看護学分野】

1. 根本裕美子, 末永カツ子, 鈴木香純, 相田佳恵. 福島第1原子力発電所事故による原子力災害における保健師活動と今後の備え. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(1):27-38.
2. 高橋香子, 末永カツ子, 栗本鮎美. 東北大学大学院医学系研究科保健師養成コースの開設について(第1報) 修士課程における保健師教育に求められること. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(2):53-63.

【公衆衛生看護学分野】

3. 大森純子. 住民と共創する健康増進—地域の底力育むために—. 東北医学雑誌. 2014;126(2):147-50.
4. 大森純子, 小林真朝, 小野若菜子, 他. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014;40:105-11.
5. 大森純子, 小西恵美子, 麻原きよみ. 保健師の実践へのヒント(1) ベラルーシ視察報告から学ぶ. 保健師ジャーナル. 2014;70(7):626-30.
6. 三森寧子, 大森純子, 小西恵美子, 川崎千恵, 荒木田美香子, 菊池透. 保健師と放射線防護専門家・公衆衛生看護研究者との協働実践—母子保健事業における実践モデル—. 保健師ジャーナル. 2014;70(9):828-33.

【がん看護学分野】

7. 佐藤富美子, 浦山美輪, 早川ひと美, 岡村由紀子, 佐々木百合花, 庄子由美, 小山田信子, 亀岡淳一, 門間典子. 看護 GP 事業教育プログラム「看護学生を対象とした看護セミナーの評価」. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(1):17-25.

【緩和ケア看護学分野】

8. 菅野喜久子, 菅野雄介, 清水 陽一. 遺族の声を臨床に生かす J-HOPE 研究(多施設遺族調査)からの学び(第4回) 看取り前後のケア. がん看護. 2014;19(1): 53-61.
9. 佐藤一樹, 宮下光令. 【誌上コンサルテーションシリーズ(8) 病棟から在宅につながる緩和ケア】 退院支援と在宅ケアの現状. ナーシング・トゥデイ. 2014;29(3):8-14.
10. 重野朋子. 【思わず逃げ出したくなる状況下でのがん患者・家族とのコミュニケーション】 死にたくない、死ぬのが怖いと訴える患者とその家族への対応. Oncology Nurse. 2014;7(5):63-6.
11. 竹内真帆, 坂口幸弘. 遺族の声を臨床に生かす J-HOPE 研究(多施設遺族調査)からの学び(第6回) 遺族の悲嘆とケア. がん看護. 2014;19(4):407-13.
12. 宮下光令. 【がん治療に伴う変化をとらえる～実践に生きるアセスメントツール～】 全体からみる 包括的なケア評価尺度および Quality of Life 尺度. がん看護. 2014;19(7):634-9.
13. 宮下光令, 大沼美智子. 緩和医療の現場で直面する疑問や問題を解決! ○×で学ぶ緩和ケアのエビデンス(第2回). ナーシング・トゥデイ. 2014;29(3):84-6.
14. 宮下光令, 齋藤明美. 緩和医療の現場で直面する疑問や問題を解決! ○×で学ぶ緩和ケアのエビデンス(第4回). ナーシング・トゥデイ. 2014;29(5):68-70.
15. 宮下光令, 武田真恵. 緩和医療の現場で直面する疑問や問題を解決! ○×で学ぶ緩和ケアのエビデンス(第1回). ナーシング・トゥデイ. 2014;29(2):78-80.
16. 宮下光令, 中條庸子. 緩和医療の現場で直面する疑問や問題を解決! ○×で学ぶ緩和ケアのエビデンス(第3回). ナーシング・トゥデイ. 2014;29(4):74-6.

17. 宮下光令, 藤本亘史. 緩和医療の現場で直面する疑問や問題を解決! ○×で学ぶ緩和ケアのエビデンス (第5回). ナーシング・トゥデイ. 2014;29(6):72-5.

【小児看護学分野】

18. 木村智一, 塩飽仁, 澤田和美, 丸光恵. 児童養護施設に勤務する看護師に求められる役割. 季刊「児童養護」. 2014;45(1):38-41.

【精神看護学分野】

19. 高橋葉子. 看護師に怒りを向ける患者・家族への対応. *Oncology Nurse*. 2014;7(5):58-62.
20. 光永憲香, 濱家由美子, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 吉井初美, 松岡洋夫, 松本和紀, 齋藤秀光. 初回エピソードサイコーシス(FEP)患者への個別心理・社会的介入プログラムの検討. 第44回日本看護学会論文集. 精神看護. 2014;44:37-40

【周産期看護学分野】

21. 坂田あゆみ, 佐藤喜根子. 震災からの学びを活かす宮城県の取り組み 第3報 地域における共同活動「たまごひよこサロン」について. 助産雑誌. 2014;68(4):366-8.
22. 坂田あゆみ, 佐藤喜根子. 震災からの学びを活かす宮城県の取り組み 第4報 石巻市での母乳育児支援のための研修会実施報告. 助産雑誌. 2014;68(5):444-5.
23. 佐藤喜根子. 震災からの学びを活かす宮城県の取り組み 第1報 助産師を対象としたALSO研修. 助産雑誌. 2014;68(2):138-9.
24. 佐藤喜根子. 震災からの学びを活かす宮城県の取り組み 第2報 助産師を対象としたメンタルヘルス研修会. 助産雑誌. 2014;68(3):220-1.
25. 佐藤喜根子. 震災時に周産期女性だった母親とそのパートナーの心身の健康状態と周産期医療従事者の実態調査研究—震災後1.4年と2年目の実態—(報告書). 厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業). 2014;61-102.
26. 佐藤喜根子, 菅原準一. 被災地自治体と連携した保健活動(報告書). 厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業). 2014;5:17-21.
27. 佐藤富美子, 浦山美輪, 早川ひと美, 岡村由紀子, 佐々木百合花, 庄子由美, 小山田信子, 亀岡淳一, 門間典子. 看護GP事業教育プログラム「看護学生を対象とした看護セミナーの評価」. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(1):17-25.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

28. 跡上富美, 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚をした女性の妊娠経過における快適性の変化. 日本母性看護学会誌. 2014;14(1):50-6.
29. 吉沢豊予子. 特集 看護学において若手研究者をどう育てるか? (I) 将来の看護学を構築する卓越した若手研究者をどう育てるか. 看護研究. 2014;47(1):6-13.
30. 渡邊生恵, 中村康香. 宮城県における出産後女性の健診・検診受診の実態とその関連要因に関する調査. 公衆衛生みやぎ. 2014;435:21-7.

5-3. 著書

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美, 館正弘. ドレッシング材の選び方と使い分け. In: 宮地良樹(編). まるわかり 創傷治療のキホン. 東京: 南山堂; 2014. p. 151-59.
2. 菅野恵美, 館正弘. 治療薬は外用薬だけではない ドレッシング材の活用, 使い分け. In: 宮地良樹(編). 間違いだらけの褥瘡・フットケア 変容する創傷管理の常識. 東京: 中山書店, 2014. p. 35-45.
3. 菅野恵美, 館正弘. 下肢感染症の評価と栄養管理. In: 小林修三(企画・編). WOC Nursing. 東京: 医学出版; 2014. p. 58-65.

【地域ケアシステム看護学分野】

4. 末永カツ子. 障害者と福祉. In: 増田雅暢 島田美喜(編)ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障. 大阪: メディカ出版; 2014. 94-110.
5. 末永カツ子. 新任期から担う公衆衛生看護管理機能. In: 井伊久美子, 荒木田美香子, 松木珠実, 堀井とよみ, 村嶋幸代, 平野かよ子(編). 第3版 新版 保健師業務要覧. 東京. 日本看護協会出版会. 2014. 94-195.
6. 高橋香子. 対象別公衆衛生看護活動論:成人保健活動. In: 吾郷美奈恵, 他 21名(編著). 2015版保健師国家試験問題解答・解説. 東京: メヂカルフレンド社; 2014. p. 185-96.
7. 高橋香子. 対象別公衆衛生看護活動論:高齢者保健活動. In: 吾郷美奈恵, 他 21名(編著). 2015版保健師国家試験問題解答・解説. 東京: メヂカルフレンド社; 2014. p. 197-219.
8. 高橋香子. 対象別公衆衛生看護活動論:難病の保健活動. In: 吾郷美奈恵, 他 21名(編著). 2015版保健師国家試験問題解答・解説. 東京: メヂカルフレンド社; 2014. p. 244-59.
9. 高橋香子. 対象別公衆衛生看護活動論:感染症の保健活動. In: 吾郷美奈恵, 他 21名(編著). 2015版保健師国家試験問題解答・解説. 東京: メヂカルフレンド社; 2014. p. 260-80.

【公衆衛生看護学分野】

10. 大森純子. 第4章 知の創出と洗練—科学の実践としてのインタビュー. In: 斎藤清二, 山田富秋, 本山方子(編). 質的心理学フォーラム選書1 インタビューという実践. 東京: 新曜社; 2014. p. 63-80.
11. 大森純子. 第3章2節 地域全体への公衆衛生看護技術, 住民との協働による地域づくり. In: 佐伯和子, 麻原きよみ, 荒木田美香子, 岡本玲子(編). 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版; 2014. p. 118-31.
12. 大森純子. 第VI章 保健師が担う政策化のプロセスと方法論, 地域診断(コミュニティ・アセスメント). In: 星旦二, 麻原きよみ(編). これからの保健医療福祉行政論. 東京: 日本看護協会出版会; 2014. p. 122-7.
13. 大森純子. エスノグラフィー. In: 鳩野洋子, 島田美喜(編). 公衆衛生実践キーワード. 東京: 医学書院; 2014. p. 186-7.
14. 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代. 「地域特性に応じた在宅医療ケアシステムの構築—福岡県の実例とPDCA サイクル実践ツールの開発」. In: 在宅の高齢者を支える—医療・介護・看取り—. *Advances in Aging and Health Research* 2013. 愛知: 長寿科学振興財団; 2014. p. 71-80.

【がん看護学分野】

15. 佐藤富美子. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割. In: 清水英佑(監). 柳澤裕之, 佐藤富美子, 福本正勝(編). *みるみるナーシング 公衆衛生 2015*. 東京: 医学評論社; 2014. p. 193-218.

【緩和ケア看護学分野】(2009年10月以降)

16. 宮下光令, 森谷優香. データでみる日本の緩和ケアの現状. In: 恒藤暁, 森田達也, 宮下光令(編). *ホスピス緩和ケア白書 2014*. 東京: 青海社; 2014. p. 64-81.

5-4. 国際学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Sasaki K, Sato H, Bao S, Kanno E, Maruyama R. Hemodynamic responses to recumbent positions in healthy adults. *FASEB*; 2014 Apr 26-30; San Diego, USA.
2. Sato H, Sasaki K, Bao S, Kanno E, Maruyama R. Sex differences in heart rate variability and circulation after postural change. *FASEB*; 2014 Apr 26-30; San Diego, USA.
3. Bao S, Sasaki K, Sato H, Kanno E, Maruyama R. Effect of low birth weight on inflammation biomarkers and autonomic function in healthy young adults. *FASEB*; 2014 Apr 26-30; San Diego, USA.

4. Suzuki A, Kanno E, Kawakami K, Tanno H, Ishii K, Maruyama R, Tachi M. CARD9 does not affect acute wound healing. The Wound Healing Society's 2014 Annual Meeting/The Symposium of Advanced Wound Care; 2014 Apr 23-27; Orland, USA.
5. Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Suzuki A, Ishii K, Maruyama R, Tachi M: Involvement of invariant natural killer T cells in the acute wound healing in skin. The Wound Healing Society's 2014 Annual Meeting/The Symposium of Advanced Wound Care; 2014 Apr 23-27; Orland, USA.

【看護教育・管理学分野】

6. Tei-Tominaga M, Asakura T, Asakura K, Minami A. A development of measurement tool for social capital and ethics at the workplace for nurses in Japan. International Commission on Occupational Health: Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep 17-19; Adelaide, Australia.
7. Shimojo Y, Aakura K, Satoh M, Watanabe I. Relationships between work-family organizational culture, organizational commitment, and intention to stay in Japanese registered nurses. International Commission on Occupational Health: Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep 17-19; Adelaide, Australia.
8. 2 Dec; San Antonio, USA.

【がん看護学分野】

9. Arinaga Y, Sato F, Piller N. 3 months self-care may reduce breast cancer related lymphoedema. 2014 International Lymphoedema Framework Conference; 2014 June 4; Glasgow, England.
10. Kameoka J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Nakamura Y, Ishii S. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan for the past ten years. The Association for Medical Education in Europe 2014, 2014 Aug 30-Sep 3, Milan.
11. Katayose Y, Sato N, Motoi F, Nakagawa K, Yoshida H, Morikawa T, Hayashi H, Mizuma M, Fukase K, Aoki T, Kawaguchi K, Naitoh T, Unno M. Quality Of Life (QOL) evaluation for pancreatic tumor surgery patients at the three and six months after surgery in a single center prospective study. The 45th Anniversary Meeting of APA & JPS; 2014 Nov 5-8; Hawaii, USA.

【緩和ケア看護学分野】

12. Kameoka J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Nakamura Y, Ishii S. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan for the past ten years. The Association for Medical Education in Europe 2014, 2014 Aug 30-Sep 3, Milan.

【周産期看護学分野】

13. Sakata A, Sato K, Oyamada N, Sato S, Takahashi E, Honda S, Kumagai K. Postpartum depression after the east japan earthquake. The WAIMH 14th World congress; 2014 June 14-18; Edinburgh, England.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

14. Kameoka J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Nakamura Y, Ishii S. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan for the past ten years. AMEE (Association for Medical Education in Europe) 2014; 2014 Aug 30-Sep 3; Milan.
15. Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Remote community-based public health nursing during a disaster: an ethnographic case study in Japan. *Australas Emerg Nurs J.* 2014 Aug;17(3):106-11.
16. Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Characteristics of becoming a family process for women who were pregnant before marriage in Japan. The 17th EAFONS; 2014 Feb 21-22; Philippines, USA.

17. Nakamura Y, Ito N, Sakai Y, Sugiura M, Yagimori W, Kikuchi N, Atogami F, Yoshizawa T. The characteristics of physical activity of hospitalized pregnant women. The 17th EAFONS; 2014 Feb 21-22; Philippines, USA.
18. Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Committed to working for the community: Experiences of a public health nurse in a remote area during the great east Japan earthquake. The 17th EAFONS; 2014 Feb 21-22; Philippines, USA.
19. Kusaka Y, Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Gynecological cancer survivors' experiences: Women's feelings about enduring self-care to prevent secondary lower extremity lymphedema. The 17th EAFONS; 2014 Feb 21-22; Philippines, USA.

5-5. 国内学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. 大川洋平, 沓澤智子, 菅野恵美, 丸山良子. 循環動態からみた受動的体位変換における事前予告の効果. 日本看護技術学会第 13 回学術集会; 2014 Nov 22-23; 京都
2. 上松野りな, 菅野恵美, 川上和義, 丹野寛大, 鈴木愛子, 高木尚之, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 創傷治癒過程における I 型インターフェロンの関与. 第 44 回日本創傷治癒学会; 2014 Dec 2-3; 仙台
3. 菅野恵美, 川上和義, 丹野寛大, 鈴木愛子, 上松野りな, 石井恵子, 高木尚之, 丸山良子, 館正弘. 緑膿菌が創部アポトーシス誘導に与える影響. 第 44 回日本創傷治癒学会; 2014 Dec 2-3; 仙台
4. 佐藤遥, 佐々木康之輔, 包薩日娜, 菅野恵美, 丸山良子. 年齢と性差が体位変換時の自律神経活動および循環動態に与える影響. 日本看護技術学会第 13 回学術集会; 2014 Nov 22-23; 京都
5. 鈴木愛子, 菅野恵美, 川上和義, 丹野寛大, 上松野りな, 高木尚之, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程における CARD9 遺伝子欠損の影響. 第 44 回日本創傷治癒学会; 2014 Dec 2-3; 仙台
6. 高木尚之, 川上和義, 菅野恵美, 丹野寛大, 武田睦, 鈴木愛子, 上松野りな, 石井恵子, 館正弘. 創傷治癒における IL-17 の役割に関する研究. 第 44 回日本創傷治癒学会; 2014 Dec 2-3; 仙台
7. 高橋梯子, 菅野恵美, 須藤洋子, 丸山良子, 館正弘. 局所陰圧療法施行時における疼痛管理の重要性. 第 23 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会; 2014 May 16-17; 大宮
8. 丹野寛大, 川上和義, 菅野恵美, 鈴木愛子, 上松野りな, 石井恵子, 古和田雪, 丸山良子, 館正弘. NKT 細胞による好中球性炎症反応の制御を介した皮膚創傷治癒の促進. 第 44 回日本創傷治癒学会; 2014 Dec 2-3; 仙台
9. Kamimatsuno R, Kanno E, Tanno H, Suzuki A, Takagi N, Ishii K, Uno K, Kawakami K. Involvement of type I interferons on the wound healing in skin. 第 43 回日本免疫学会学術集会; 2014 Dec 10-12; 京都
10. Susuki A, Kanno E, Tanno H, Kamimatsuno R, Ishii K, Hara H, Kawakami K. Effect of CARD9-deficiency on the wound healing process in skin. 第 43 回日本免疫学会学術集会; 2014 Dec 10-12; 京都
11. Tanno H, Kanno E, Suzuki A, Takagi N, Kamimatsuno R, Ishii K, Nakayama T, Taniguchi M, Kawakami K. Lack of NKT cells leads to persisted infiltration of neutrophils and delayed wound healing process in skin. 第 43 回日本免疫学会学術集会; 2014 Dec 10-12; 京都
12. Takagi N, Kanno E, Tanno H, Ishii K, Iwakura Y, Kawakami K. IL-17A deficiency leads to attenuated neutrophilic inflammation and promoted wound healing in skin. 第 43 回日本免疫学会学術集会; 2014 Dec 10-12; 京都

【看護教育・管理学分野】

13. 佐藤みほ, 渡邊生恵, 朝倉京子. 看護職員の職業移動に関する縦断調査: ベースライン調査報告. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮.

14. 下條祐也, 朝倉京子, 佐藤みほ, 渡邊生恵. 両立支援的組織風土、職務満足度、および職業継続意思の関連:妻/母親役割を担う看護職に注目して. 第 34 回日本看護科学学会学術大会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
15. 富永真己, 朝倉京子, 朝倉隆司. 病院看護師のための職場の Social capital and Ethical indicator の開発. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮.

【地域ケアシステム看護学分野】

16. 相田佳恵, 末永カツ子, 根本裕美子. 退職保健師が東日本大震災後に被災地の地域保健活動へ参加したプロセスと活動の原動力. 日本災害看護学会第 17 回年次大会; 2014 Aug 19-20; 東京.
17. 赤間さやか, 佐藤愛里, 佐藤由理, 相田佳恵, 末永カツ子, 栗本鮎美, 田口敦子, 高橋香子. 東日本大震災時における保健師活動(第 5 報) ポピュレーションアプローチでの心のケア. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮.
18. 栗本鮎美, 末永カツ子, 高橋 香子, 田口 敦子. 発達障害の理解を深めるための実践報告 大学生対象の障害の社会モデルに基づく取組み. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮.
19. 末永カツ子. 保健医療福祉職が生き生きと働き続けるために 東日本大震災で被災地保健師に求められた役割. 第 40 回日本保健医療社会学大会; 2014 May 17-18; 仙台(シンポジスト).
20. 末永カツ子. ひと, つながり, 地域ー被災地における発達障害支援の取組み・課題と展望. 日本発達障害学会第 49 回大会. 2014 Aug 23-24; 仙台.
21. 根本裕美子, 末永カツ子, 相田佳恵. 原子力災害への今後の備え 原発事故周辺自治体の保健師へのインタビュー結果から. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮.
22. 渡邊夏美, 高橋香子, 栗本鮎美, 末永カツ子. 東日本大震災時における保健師活動(第 6 報) 被災地の住民主体の地域交流サロン. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮.

【公衆衛生看護学分野】

23. 新井志穂, 成松宏人, 村嶋 幸代, 秋山直美, 有本梓, 田口敦子. 貸切バス運転者における食習慣と勤務状況との関連. 第 87 回日本産業衛生学会; 2014 May21-24; 岡山.
24. 大森純子, 麻原きよみ, 矢吹敦子, 川崎千恵, 荒木田美香子, 小野若菜子, 小林真朝, 三森寧子, 北宮千秋. 放射線防護文化形成のための実践モデル 2「保健師との協働ミーティング」の効果と課題. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov5-7; 宇都宮.
25. 川崎千恵, 麻原きよみ, 矢吹敦子, 大森純子, 荒木田美香子, 小野若菜子, 小林真朝, 三森寧子, 北宮千秋. 放射線防護文化形成のための実践モデル 1「既存事業における健康講話と対話」の効果. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov5-7; 宇都宮.
26. 坂本カノ子, 高橋裕子, 可野倫子, 田口敦子. 認知症早期対応・早期支援の取組み. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov5-7; 宇都宮.
27. 田口敦子, 村山洋史, 寺尾敦史. 健康推進員の活動満足感を高める研修プログラムの効果. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov5-7; 宇都宮.
28. 三森寧子, 小西恵美子, 菊池透, 大森純子, 荒木田美香子, 川崎千恵. 母子保健事業における放射線に関するミニ講座の取組み:効果的实践と課題. 第 3 回日本放射線看護学会学術集会; 2014 Sep5-6; 大阪.
29. 森松薫, 鎌田久美子, 王丸才恵子, 野田容美, 塚本忍, 山下眞由美, 田口敦子. 在宅医療推進事業の質の担保に向けた事業実施マニュアルおよび事業評価指標の開発(～中間報告～). 第 3 回日本公衆衛生看護学学術集会; 2014 Jan 10-11; 神戸.
30. 吉澤彩, 田口敦子, 岩崎昭子, 鈴木順一郎. 訪問看護事業所のない地域に住む 在宅療養者の実態. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov5-7; 宇都宮.

【地域保健学分野】

31. Nishino Y, Kawai M, Kakugawa Y, Minami Y. Cigarette smoking and breast cancer risk in relation to joint estrogen and progesterone receptor status: A case-control study. 第 73 回日本癌学会学術総会; 2014 Sep 23-27; 横浜

32. 角川陽一郎, 西野善一, 深町佳世子, 河合賢朗, 南優子. 婚姻状況、妊娠出産歴と乳がんの予後との関連. 第 22 回日本乳癌学会学術総会; 2014 Jul 10-12; 大阪
33. 西野善一, 角川陽一郎, 河合賢朗, 南優子. トリプルネガティブ乳癌の危険因子: コーヒーおよび茶類との関連の検討. 第 24 回日本疫学会学術総会; 2014 Jan 23-25; 仙台
34. 南優子, 河合賢朗, 西野善一, 角川陽一郎, 菅原由美, 辻一郎. Physical activity and breast cancer risk in Japanese women: The Miyagi Cohort Study. 第 24 回日本疫学会学術総会; 2014 Jan 23-25; 仙台
35. 南優子, 西野善一, 瀧澤洋子, 辻一郎. 宮城県における組織型別肺がん罹患率の動向. 第 73 回日本公衆衛生学会総会; 2014 Nov 5-7; 宇都宮

【成人看護学分野】

36. 飯沼由紀恵, 齋藤明美, 武田真恵, 大沼美智子, 上原厚子, 門脇美佳, 中條庸子, 菊地史子. 認定看護師による院内「がん看護セミナー」に対する評価—「がん看護セミナー」受講者の実践活用状況を基に—. 第 28 回日本がん看護学会学術集会; 2014 Feb 8-9; 新潟.
37. 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 菊地史子, 柏倉栄子. 成人看護学実習における看護実践能力習得に関する学生の自己評価. 第 24 回日本看護学教育学会学術集会; 2014, Aug, 26-27; 千葉.
38. 佐藤しのぶ, 穀田知秋, 菊池愛, 吉野恵美子, 佐藤典子, 齋藤明美, 畠山里恵, 菊地史子. 緩和ケア病棟で終末期患者と家族に関わる看護師とリハビリテーションスタッフとの協働を考える. 第 18 回東北緩和医療研究会 秋田大会; 2014 Aug 10; 秋田.

【がん看護学分野】

39. 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 有永洋子. 乳がん術後 3 年までの上肢機能障害改善に向けた介入による QOL 効果. 第 34 回日本看護科学学会学術集会; 2014 Nov 29; 名古屋.
40. 川口桂, 片寄友, 佐藤菜保子, 岡田良, 益田邦洋, 石田晶玄, 藪内伸一, 深瀬耕二, 大塚英郎, 水間正道, 坂田直昭, 中川圭, 岡田恭穂, 森川孝則, 林洋毅, 吉田寛, 元井冬彦, 海野倫明. SF36v2 を用いた術前化学療法前後の QOL 評価. 第 9 回膵癌術前治療研究会; 2014 Oct 18; 鹿児島.
41. 川口桂, 片寄友, 佐藤菜保子, 元井冬彦, 海野倫明. SF36v2 を用いた膵頭十二指腸切除術後の QOL 評価. 第 168 回東北外科集談会・第 83 回日本小児外科学会東北地方会・第 26 回日本血管外科学会東北地方会; 2014 Sep 13; 秋田.
42. 佐藤菜保子, 片寄友, 元井冬彦, 中川圭, 吉田寛, 森川孝則, 川口桂, 藪内伸一, 工藤克昌, 佐藤昌美, 佐藤富美子, 海野倫明. 膵腫瘍患者の手術後 3 ヶ月時点の QOL と FACT-Hep 症状項目との関連. 第 52 回日本癌治療学会; 2014 Aug 28-29; 横浜.
43. 佐藤富美子, 成人看護学実習における看護実践能力習得に関する学生の自己評価. 日本看護学教育学会第 24 回学術集会; 2014 Aug 26-27; 幕張.
44. 片寄友, 佐藤菜保子, 元井冬彦, 中川圭, 吉田寛, 森川孝則, 岡田恭穂, 林洋毅, 坂田直昭, 水間正道, 深瀬耕二, 青木豪, 藪内伸一, 川口桂, 江川新一, 内藤剛, 海野倫明. 健康関連 QOL 尺度 SF36v2 による膵腫瘍手術の術後 3 ヶ月評価: 初期 54 例からの検討. 第 45 回日本膵臓学会大会; 2014 July 11-12; 北九州.
45. 佐藤富美子. 乳がん術後 3 年までの上肢機能障害予防改善に向けた介入の効果. 第 28 回日本がん看護学会学術集会; 2014 Feb 8-9; 新潟.
46. 納谷さくら, 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. がん患者のオピオイドに対する懸念と痛みのコントロールの関連. 第 28 回日本がん看護学会学術集会; 2014 Feb 8-9; 新潟.
47. 千葉みゆき, 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. 化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応と治療変数及び身体症状の関連. 第 28 回日本がん看護学会学術集会; 2014 Feb 8-9; 新潟.
48. 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 菊地史子, 柏倉栄子, 成人看護学実習における看護実践能力習得に関する学生の自己評価, 日本看護学教育学会第 24 回学術集会; 2014 Aug 26-27; 幕張.

49. 早川ひと美, 酒井敬子, 三浦洋子, 佐々木百合花, 岡村由紀子, 佐藤富美子, 吉沢豊予子, 看護系大学 2 年次のインターンシップ経験ー 初期キャリア支援の試み. 日本看護学教育学会第 24 回学術集会; 2014 Aug 26-27; 幕張.
50. 亀岡淳一, 高橋文恵, 佐藤富美子, 佐藤一樹, 中村康香, 石井誠一, 全国 42 国立大学の看護学専攻分野の英語論文数の過去 10 年間の推移. 第 46 回日本医学教育学会大会; 2014 Sep 18-19; 和歌山.
- 【緩和ケア看護学分野】
51. 新幡智子, 宮下光令, 梅田恵, 桑田美代子, 田村恵子, 木澤義之. 看護師に対する ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムの有効性の検証: Wait list control による無作為化比較試験. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会, 2014 Jun 19-21, 504, 神戸.
52. 大石隆之, 高橋雅信, 塩野雅俊, 高橋信, 秋山聖子, 城田英和, 下平秀樹, 加藤俊介, 石岡千加史. 標準治療抵抗性となった進行再発大腸癌へのレゴラフェニブ投与例の検討. 日本内科学会雑誌. 2014;103(Suppl.):249. 佐藤悠子, 西條憲, 井上正広, 添田大司, 坂本康寛, 塩野雅俊, 高橋雅信, 高橋信, 角道祐一, 城田英和, 秋山聖子, 下平秀樹, 森隆弘, 加藤俊介, 石岡千加史. 骨転移を有する進行癌 35 例に対するデノスマブの有効性と安全性に関する後ろ向き解析. 日本癌治療学会誌. 2014;49(3):2124.
53. 大石隆之, 高橋雅信, 吉野優樹, 李仁, 塩野雅俊, 高橋昌宏, 城田英和, 下平秀樹, 加藤俊介, 石岡千加史. 進行再発大腸癌 14 例に対するレゴラフェニブの有効性と安全性に関する後方視的検討. 日本癌治療学会誌. 2014;49(3):2417.
54. 角甲純, 關本翌子, 小川朝生, 宮下光令. 終末期がん患者の呼吸困難に対する送風の支援の有効性についてのケースシリーズ研究. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
55. 亀岡淳一, 高橋文恵, 佐藤富美子, 佐藤一樹, 中村康香, 石井誠一. 全国 42 国立大学の看護学専攻分野の英語論文数の過去 10 年間の推移. 第 46 回日本医学教育学会総会; 2014 July 18-19; 和歌山.
56. 菅野喜久子, 木下寛也, 森田達也, 佐藤一樹, 清水恵, 秋山聖子, 村上雅彦, 宮下光令. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん患者の緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
57. 菅野雄介, 佐藤一樹, 清水恵, 安藤秀明, 舩水裕子, 岸野恵, 前原絵美理, 高橋徹, 宮下光令. 遺族の視点から臨終前後の患者と家族の看取りのケアの質を評価する尺度の開発と信頼性・妥当性. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
58. 菅野雄介, 佐藤一樹, 清水恵, 安藤秀明, 舩水裕子, 岸野恵, 前原絵美理, 高橋徹, 宮下光令. 医療者から受けた看取りのケアの実践と遺族の望ましい看取りの達成との関連要因の探索. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
59. 菅野雄介, 佐藤一樹, 田口敦子, 宮下光令. 看取りのケアのクリニカルパス Liverpool Care Pathway(LCP)の英国での動向: Independent Review 発表後の医療者の LCP に対するコメントに関する文献レビュー. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
60. 佐藤一樹, 志真泰夫, 伊藤咲, 安部奈津子, 宮下光令. 緩和ケア病棟入院料改定前後での緩和ケア病棟の利用状況の変化. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
61. 清水恵, 安藤早紀, 原田真里子, 久慈瑞希, 佐藤一樹, 宮下光令. Caregiver Quality of Life Index-Cancer(CQOLC)日本語版の信頼性・妥当性の検証. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
62. 竹内真帆, 吉田早希, 山田祐司, 柳原一広, 安部睦美, 白土明美, 首藤真理子, 岡本禎晃, 浜野淳, 森田達也, 宮下光令. 遺族調査が遺族に与える負担と受益. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
63. 竹内真帆, 宮本蒼, 岡本禎晃, 山田祐司, 柳原一広, 安部睦美, 白土明美, 首藤真理子, 浜野淳, 森田達也, 宮下光令. 遺族によるがん患者の死亡前の症状の評価. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.

64. 竹内真帆, 中畑美里, 平井啓, 山田祐司, 柳原一広, 安部睦美, 白土明美, 首藤真理子, 岡本禎晃, 浜野淳, 宮下光令. がん患者の遺族による緩和ケアの構造・プロセスの評価尺度 Care Evaluation Scale ver2.0 の信頼性・妥当性の検討. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
65. 佐竹宣明, 中保利通, 佐藤一樹, 佐藤千穂子, 島田哲, 田島つかさ, 宮下光令. 緩和ケアの構造・プロセス、アウトカム評価における家族による代理評価の信頼性の検証に関する研究. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.
66. 船水裕子, 荻安真佐美, 高橋加代子, 冨野江里子, 石川千夏, 阿部緑, 煙山晶子, 伊藤登茂子, 安藤秀明, 新幡智子, 菅野雄介, 宮下光令. 秋田県の看護師における ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム受講前後の評価. 日本癌治療学会誌. 2014;49(3):2785.
67. 渡部芳紀, 黒田美智子, 木村彩, 山下恵美, 重野朋子, 石垣砂織, 佐藤泰之, 戸屋亮, 川村博司, 灘岡壽英, 加藤佳子. 地域緩和医療の課題 在宅療養困難要因と地域医療体制の検討. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会; 2014 Jun 19-21; 神戸.

【小児看護学分野】

68. 井上由紀子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 子供が療養生活において「自分の意思を尊重されているか」の認識の現状と必要な支援方法についての検討. 日本看護研究学会第 40 回学術集会; 2014 Aug 23-24; 奈良.
69. 入江亘, 小川恵理子, 小澤美和, 山本光映, 細谷亮太, 塩飽仁. 小児がんで入院している患児の父親を対象とした親の会のニーズ. 第 12 回日本小児がん看護学会学術集会; 2014 Nov 28-30; 岡山.
70. 日下由利子, 井上由紀子, 鈴木祐子, 塩飽仁. 看護師と患児および保護者が認識する病名と病状説明時における看護師の対応についての実態調査. 第 12 回日本小児がん看護学会学術集会; 2014 Nov 28-30; 岡山.
71. 木村智一, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子, 横山千恵, 鈴木千鶴. 児童養護施設において福祉職が看護師に求める役割. 子ども虐待防止世界会議 名古屋・第 20 回国際子ども虐待防止学会世界大会(ISPCAN)・第 20 回日本子ども虐待防止学会学術集会(JaSPCAN); 2014 Spt14-17; 名古屋.
72. 木村智一, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子, 横山千恵, 鈴木千鶴. 児童養護施設に看護師と福祉職と一緒に勤務する利点. 第 17 回北日本看護学会学術集会; 2014 Aug 30-31; 仙台.
73. 木村智一, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子. 児童養護施設に勤務する看護師の実態調査 第2報－看護師自身が実施するべきと認識している項目－. 日本小児看護学会第 24 回学術集会; 2014 July 20-21; 東京.
74. 木村智一, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子. 児童養護施設に勤務する看護師の実態調査 第1報－看護師が専門性をいかして働くために必要な要素－. 日本小児看護学会第 24 回学術集会; 2014 July 20-21; 東京.
75. 酒井珠子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 大学生が認識する両親の養育態度と自己受容および友人関係の関連に関する調査研究. 第 17 回北日本看護学会学術集会; 2014 Aug 30-31; 仙台.
76. 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 親の感情表出(EE)・不安と子どもの情動調整および心身症状との関連(第2報)－両親と女子に関する検討－. 第 34 回日本看護科学学会学術集会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
77. 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 親の感情表出(EE)・不安と子どもの情動調整および心身症状との関連(第1報)－両親と男子に関する検討－. 第 34 回日本看護科学学会学術集会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
78. 佐藤萌, 塩飽仁, 鈴木祐子. 検査や治療を受ける子供への診療放射線技師と臨床検査技師のかかわりと看護師との連携に関する実態調査. 第 17 回北日本看護学会学術集会; 2014 Aug 30-31; 仙台.
79. 鈴木千鶴, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. コミュニケーション障害および自立と依存の葛藤を抱え不登校となった中学生に対する看護介入. 第 17 回北日本看護学会学術集会; 2014 Aug 30-31; 仙台.

80. 鈴木祐子, 塩飽仁, 佐藤幸子, 富澤弥生, 田崎あゆみ. 親は発達障害の子供の療育に必要な情報や支援をどこから得てどの程度子育ての支えになったととらえているか. 日本小児看護学会第 24 回学術集会; 2014 July 20-21; 東京.
81. 名古屋祐子, 入江亘, 羽鳥裕子, 吉田沙蘭, 尾形明子, 松岡真里, 多田羅竜平, 永山淳, 塩飽仁. 試作版「これからの過ごしかたについて～子ども版～」家族向け臨死期のパンフレット作成の取り組み報告. 第 12 回日本小児がん看護学会学術集会; 2014 Nov 28-30; 岡山.
82. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 樋谷由美子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一. 子どもの終末期ケアにおける看護師の困難に関するインタビュー調査. 日本小児看護学会第 24 回学術集会; 2014 July 20-21; 東京.
83. 早川ひと美, 佐々木百合花, 岡村由紀子, 鈴木祐子, 高田望, 菊池綾子, 塩飽仁, 門間典子. キャリア発達支事業(看護キャリアプロモート支援システム開発)の展開において看護職が認識した変化. 第 18 回日本看護管理学会学術集会; 2014 Aug 29-30. 愛媛.
84. 引敷林優貴, 塩飽仁, 鈴木祐子. 大学生が認識する兄妹との関係性とその関連要因に関する調査研究. 第 17 回北日本看護学会学術集会; 2014 Aug 30-31; 仙台.
85. 横山千恵, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 相墨生恵. 脳腫瘍摘出後に不登校となった小学生女兒の復学までの経過と看護外来におけるかかわりの検討. 第 17 回北日本看護学会学術集会; 2014 Aug 30-31; 仙台.

【精神看護学分野】

86. 上田一気, 佐久間篤, 高橋葉子, 内田知宏, 越道理恵, 松岡洋夫, 松本和紀. 東日本大震災から 1 年半後の社会福祉協議会職員のメンタルヘルス. 第 13 回トラウマティック・ストレス学会; 2014 May 17-18; 福島.
87. 高橋葉子. 東日本大震災後 3 年間の被災地看護職支援で見てきたもの(シンポジウム). 第 13 回トラウマティック・ストレス学会; 2014 May 17-18; 福島.
88. 高橋葉子. 東日本大震災における 3 年間の被災地看護職支援から. 第 16 回日本災害看護学会; 2014 Aug 19-20; 東京.
89. 高橋葉子, 大澤智子, 上田一気, 加藤寛, 松本和紀. 災害復興期の心理支援法である Skills for Psychological Recovery(SPR)の普及を通じた支援者支援(シンポジウム). 第 13 回トラウマティック・ストレス学会; 2014 May 17-18; 福島.
90. 高橋葉子, 佐久間篤, 上田一気, 阿部幹佳, 長尾愛美, 松本和紀, 松岡洋夫. 東日本大震災後における被災地看護師への継続的な支援活動報告. 第 57 回日本病院・地域精神医学会総会; 2014 Oct 30-Nov 1; 仙台.

【周産期看護学分野】

91. 浅田あずさ, 佐藤祥子. NICU における夫婦のコミュニケーションの実態調査, 第 55 回日本母性衛生学会学術集会; 2014 Sep 13-14; 幕張.
92. 後村花乃, 近藤美佳子, 菊地遼, 齋藤礼子, 佐藤祥子, 佐藤喜根子. 東日本大震災後(1-3 年)の宮城県内の周産期医療従事者の心身の健康に関する研究. 第 35 回宮城母性衛生学会学術集会; 2014 Nov 24; 仙台.
93. 五十嵐優子, 菊地佳久子, 佐藤祥子. 切迫早産で緊急入院し, 超早期産時を出産した母親の出産前後の心情. 第 29 回日本助産学会学術集会; 2014 Mar 29-30; 東京.
94. 浦山美和, 岡村由紀子, 小山田信子, 佐々木百合花, 早川ひと美, 大里るり, 太田真瑠利子, 宇美洋美, 庄子由美, 門間典子. 共通シナリオを用いたクリティカル看護実践力の客観的評価と開発のプロセス. 第 18 回日本看護管理学会学術集会; 2014 Aug 29-30; 仙台.
95. 小山田信子. 歴史に学ぶ看護職教育のカリキュラムポリシー—産婆の教育課程から—. 日本行動計量学会第 42 回大会; 2014 Sep 2-5; 仙台.
96. 小山田信子. 官報にみる産婆事情, 日本看護歴史学会第 28 回大会; 2014 Sep 6-7; 岐阜.

97. 小山田信子, 高橋みや子. 明治期の福島県地方において看護産婆学校が成立した背景. 第 34 回日本看護科学学会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
98. 加藤早奈恵, 榛澤麻衣, 渡辺かほり, 坂村佐知, 片倉睦, 山崎満美子, 渡邊裕美子, 佐藤祥子. NICU における退院支援の現状と課題—NICU 看護師と地域保健師への意識調査の比較から—. 第 34 回宮城母性衛生学会学術集会; 2014 Feb 9; 仙台.
99. Sakata A, Sato K. Mental health of infant's parents after the East Japan Great Earthquake. 第 34 回日本看護科学学会学術集会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
100. 佐藤喜根子, 坂田あゆみ. 東日本大震災後の宮城県内の周産期医療従事者の心身の健康に関する研究. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会; 2014 Sep 13-14; 幕張.
101. 長谷川栞, 船越絵美, 佐藤喜根子. 東日本大震災被災地域住民の家族観の変化に関する調査. 第 43 回日本女性心身医学会学術集会; 2014 July 9-10; 京都.
102. 船越絵美, 長谷川栞, 佐藤喜根子. 東日本大震災時妊婦だった女性の子育て中の心身の健康状態. 第 43 回日本女性心身医学会学術集会; 2014 July 9-10; 京都.
103. 山崎満美子, 渡邊かほり, 渡邊裕美子, 片倉睦, 佐藤祥子. NICU における退院支援の取り組みの現状—地域保健師と NICU 看護師の意識調査の比較から—, 第 55 回日本母性衛生学会学術集会; 2014 Sep 13-14; 幕張.
- 【ウイメンズヘルス看護学分野】**
104. 小川彩, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子, 武石陽子. 就労妊婦における妊娠期の快適性の特徴. 第 55 回日本母性衛生学術集会; 2014 Sep 13-14; 幕張.
105. 亀岡淳一, 高橋文恵, 佐藤富美子, 佐藤一樹, 中村康香, 石井誠一. 全国 42 国立大学の看護学専攻分野の英語論文数の過去 10 年間の推移. 第 46 回日本医学教育学会大会; 2014 July 18-19; 和歌山.
106. 小又文音, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊婦のわが子に対する感情の測定尺度に関する検討. 第 55 回日本母性衛生学術集会; 2014 Sep 13-14; 幕張.
107. Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Experiences of Public Health Nurses in rural areas during the Great East Japan Earthquake. 第 34 回日本看護科学学会学術集会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
108. Nakamura Y, Yoshizawa T, Atogami F, Ito N. Considering about activity restriction for hospitalized pregnant women:A single-case experimental investigation. 第 34 回日本看護科学学会学術集会; 2014 Nov 29-30; 名古屋.
109. 早川ひと美, 酒井敬子, 三浦洋子, 佐々木百合花, 岡村由紀子, 佐藤富美子, 吉沢豊予子. 看護系大学 2 年時のインターンシップ体験・初期キャリア支援の試み. 第 24 回日本看護学教育学会学術集会; 2014 Aug 26-27; 幕張.
110. 山中優香, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 看護における安静から切迫早産妊婦の安静についての一考察. 第 55 回日本母性衛生学術集会; 2014 Sep 13-14; 幕張.
111. 吉沢豊予子, 関谷亜矢乃, 日下裕子, 竹内真帆, 齋藤久美子, 中野弘江, 中村康香, 跡上富美. 下肢リンパ浮腫患者の QOL-LYMQOL を用いて. 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第 4 回学術集会; 2014 Sep 28; 金沢.
112. 渡邊生恵, 中村康香. 宮城県における出産後女性の健診・検診受診の実態に関する調査—「子どもの健康と環境に関する全国調査(Japan Environment& Children's Study)宮城ユニットセンターによる調査結果—. 第 50 回宮城県公衆衛生学会学術総会; 2014 July 17; 仙台.

5-6. 外部資金獲得(主任研究) ※2014 年 4 月～2015 年 3 月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美 (主任研究者). 褥瘡・慢性創傷の炎症遷延に関わるダメージ関連分子の同定と炎症制御ケア技術の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.

2. 丸山良子 (主任研究者). 超高齢者の安全な早期離床のための評価指標の開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.
3. 丸山良子 (主任研究者). 日本人・中国少数民族の出生体重と高血圧発症に関する調査研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar.
4. 菅野恵美(主任研究者). NKT 細胞活性化による難治性皮膚潰瘍の新規治療法の開発. 平成 26 年度公益財団法人良陵医学振興会. 2014 Sep.

【看護教育・管理学分野】

5. 朝倉京子(主任研究者). 看護職員の職業移動と心理社会的/経済的要因に関する縦断的研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2012 Apr - 2016 Mar.

【老年・在宅看護学分野】

6. 齋藤美華(主任研究者). 定年退職後の高齢男性を対象とした地域活動への参加支援プログラムの開発. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2016 Mar
7. 坂川奈央(主任研究者). 排尿習慣化訓練の適応基準とプロトコルの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar

【地域ケアシステム看護学分野】

8. 末永カツ子(主任研究者). 被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2017 Mar.
9. 高橋香子(主任研究者). 被災地難病患者のための統合医療生活支援システムの構築に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.

【公衆衛生看護学分野】

10. 田口敦子(主任研究者). 日本の文化に沿った、在宅緩和ケアにおける看取りケアのクリティカルパス Liverpool Care Pathway 日本語在宅バージョンの開発と有用性の検討. 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団. 2013 Aug - 2014 Sep.
11. 田口敦子(主任研究者). 孤立予防に向けた住民組織主導型アウトリーチモデルの効果検証. 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団. 2013 Nov - 2014 Oct.
12. 大森純子(主任研究者). 新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2010 Apr - 2015 Mar.
13. 田口敦子(主任研究者). 地域における終末期ケアの質向上ツールおよび教育プログラムの開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2014 Apr - 2016 Mar.

【地域保健学分野】

14. 南優子(主任研究者). ストレス関連ホルモンと乳がん罹患・予後に関する分析疫学研究. 平成 23 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2011 Apr - 2015 Mar.

【成人看護学分野】

15. 菊地史子(主任研究者). 緩和ケア病棟における終末期リハビリテーション導入体制確立に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.

【がん看護学分野】

16. 佐藤菜保子(主任研究者). CRHR1陽性子宮内膜癌細胞発現におけるストレス影響と遺伝的背景の解明. 平成 23 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2011 Apr - 2016 Mar.
17. 有永洋子(主任研究者). アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.
18. 佐藤富美子(主任研究者). 乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究. 平成 26 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(B)). 2014 Apr - 2018 Mar.
19. 佐藤菜保子(主任研究者). 臍腫瘍切除患者の術後経過と QOL に関する長期的評価. 公益財団法人良陵医学振興会医学研究助成金 (研究 A). 2014 Oct - 2015 Sep.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年度以降)

20. 佐藤一樹(主任研究者). 在宅緩和ケアの質の簡便な評価方法の開発. 平成 24 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2012 Apr - 2015 Mar.
21. 宮下光令(主任研究者). がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar.
22. 宮下光令(主任研究者). 終末期ケアに関わる看護師主導型の各種クリニカル・パスの評価. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.

【小児看護学分野】

23. 塩飽仁(主任研究者). 発達障害の子どもと家族のための看護支援ガイドラインの開発とその検証に関する研究. 平成 23 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2011 Apr - 2016 Mar.
24. 井上由紀子(主任研究者). 発達障害の子どもと養育者のための意思決定支援のガイドラインの開発. 平成 24 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2012 Apr - 2015 Mar.
25. 鈴木千鶴(主任研究者). 食物アレルギー児をもつ母親の背景要因と困難感と対処行動の関連. 北日本看護学会研究奨励会 平成 26 年度奨励研究. 2014.
26. 横山千恵(主任研究者). 特別支援学校に勤務する看護師の困難感と職務継続意思の関連およびその要因の検討. 北日本看護学会研究奨励会 平成 26 年度奨励研究. 2014.

【精神看護学分野】

27. 吉井初美(主任研究者). 統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2016 Mar.
28. 吉井初美(主任研究者). 茶道を通して精神障害者の QOL 向上を促す活動. 平成 26 年度公益財団法人 倶進会一般助成. 2014 Apr - 2015 Mar.
29. 吉井初美(主任研究者). 職場での精神障害者に対するスティグマ問題(継続). 平成 26 年度上廣倫理財団研究助成. 2014 Jan - Dec.
30. 光永憲香(主任研究者). 早期精神病性障害の初回入院患者に対する心理・社会的介入プログラムの開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2014 Apr - 2017 Mar.

【周産期看護学分野】

31. 小山田信子(主任研究者). 地方における看護教育制度成立過程の研究. 平成 22 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2010 Apr - 2015 Mar.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

32. 中村康香(主任研究者). 入院切迫早産妊婦におけるケアとケアを融合した看護実践ガイドラインの開発. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2015 Mar.
33. 吉沢豊予子(主任研究者). 深部静脈血栓予防を考慮した C/S 褥婦へのフットレスト予防ケア介入の検討. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.

5-7. 外部資金獲得(分担研究) ※2014 年 4 月～2015 年 3 月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 丸山良子(分担研究者). ハンドマッサージの受け手-実施者双方へのリラクゼーション効果の科学的実証. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2018 Mar.
2. 菅野恵美(分担研究者). 創傷治癒における IL-17 の役割と産生制御機構及び慢性創傷における意義. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2017 Mar.
3. 菅野恵美(分担研究者). クオラムセンシング分子による創部 MRSA 感染制御法の開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2014 Apr - 2016 Mar.

【看護教育・管理学分野】

4. 朝倉京子(分担研究者). 地域ケアにおけるジェンダーの次元とアーティキュレーション・ワークに関する国際比較研究. 平成 23 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))海外学術研究. 2011 Apr -2015 Mar.

- 朝倉京子(分担研究者). 病院における組織特性が組織の健康に及ぼす影響:HMO の概念モデルを用いた実証研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.

【地域ケアシステム看護学分野】

- 高橋香子(分担研究者). 被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2017 Mar.
- 栗本鮎美(分担研究者). 被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2017 Mar.
- 末永カツ子(分担研究者). 被災地難病患者のための統合医療生活支援システムの構築に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.
- 栗本鮎美(分担研究者). 被災地難病患者のための統合医療生活支援システムの構築に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.

【がん看護学分野】

- 佐藤富美子(分担研究者). アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.
- 佐藤菜保子(分担研究者). 乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)) 2014 Apr - 2018 Mar.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年度以降)

- 宮下光令(分担研究者). がん患者医療情報の高度活用による終末期医療・在宅医療の全国実態調査に関する研究. 平成 25 年度 がん開発研究費. 2013 Apr - 2016 Mar.
- 宮下光令(分担研究者). がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業). 2013 Nov - 2015 Mar.
- 宮下光令(分担研究者). がん対策における緩和ケアの評価に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業). 2013 Nov - 2015 Mar.
- 宮下光令(分担研究者). 受療行動調査により患者の満足度と意識・行動等の現状と推移、相互の関連性及びその規程要因に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合). 2013 Apr - 2015 Mar.
- 佐藤一樹(分担研究者). がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立. 平成 25 年度科学研究費助成事業(基盤研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar.
- 佐藤一樹(分担研究者). 終末期ケアに関わる看護師主導型の各種クリニカル・パスの評価. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.

【小児看護学分野】

- 塩飽仁(分担研究者). 「感情表出(EE)」を用いた心身症・神経症児の親支援モデルの開発に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2016 Mar.
- 塩飽仁(分担研究者). 東日本大震災後の子どもと保護者・保育者の健康を支える総合的支援に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2015 Mar.
- 塩飽仁(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
- 鈴木祐子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
- 井上由紀子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
- 名古屋祐子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
- 塩飽仁(分担研究者). 思春期・若年成人がん患者・サバイバーへの医療・教育・就労支援に関する国際比較研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)海外学術). 2013 Apr - 2016 Mar.

25. 塩飽仁(分担研究者). 終末期ケアにかかわる看護師主導型の各種臨床・パスの評価. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.
26. 塩飽仁(分担研究者). 病児・病後児保育の実態把握と質向上に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業). 2013 Apr - 2015 Mar.
27. 塩飽仁(分担研究者). 災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.
28. 鈴木祐子(分担研究者). 災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.

【精神看護学分野】

29. 齋藤秀光(分担研究者). 緩和ケア病棟における終末期リハビリテーション導入体制確立に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2015 Mar.
30. 齋藤秀光(分担研究者). 統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2016 Mar.
31. 吉井初美(分担研究者). 子育て支援としての子育て期女性の健康指標の策定. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2017 Mar.

【周産期看護学分野】

32. 小山田信子(分担研究者). 医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適正と大学入試－. 平成 22 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2010 Apr - 2015 Mar.
33. 佐藤喜根子(分担研究者). 大災害後の身体・知的障害児に関与する要因と福祉サービス介入の役割及び効果検証. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業). 2012 Apr - 2015 Mar.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

34. 吉沢豊予子(分担研究者). 医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適性と大学入試－. 平成 22 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2010 Apr - 2015 Mar.
35. 中村康香(分担研究者). 助産師外来で活用できる妊娠期アセスメントツールの開発と実用化に向けたシステム構築. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2015 Mar.

5-8. 外部資金獲得(その他) ※2014 年 4 月～2015 年 3 月
(なし)